

小児がん拠点病院 現況報告書

令和元年9月1日時点について記載

✓チェック欄に
未入力なし

病院名	兵庫県立こども病院												
よみがな	ひょうごけんりつこどもびょういん										✓		
郵便番号	〒	650-0047									✓		
住所	兵庫県	神戸市中央区港島南町1丁目6番7									✓		
よみがな	こうべしちゅうおうくみなとじまみなみまち										✓		
電話(代表)	078-945-7300										✓		
FAX(代表)	078-302-1023												
e-mail(代表)	info_kch@hp.pref.hyogo.jp												
HPアドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/index.html												
診療科	開設診療科数	29									✓		
	診療科名(具体的に記載)	総合診療科、救急総合診療科、感染症内科、臨床遺伝科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、代謝・内分泌内科、新生児内科、集中治療科、アレルギー科、リウマチ科、心臓血管外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、精神神経科、泌尿器科、産科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、病理診断科、小児歯科、皮膚科(休診中)									✓		
外来診療受付時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	45	分	～	12	時	00	分	✓
	曜日	月曜日～金曜日	時間	13	時	00	分	～	17	時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
外来診療時間	曜日	月曜日～金曜日	時間	8	時	45	分	～	12	時	00	分	✓
	曜日	月曜日～金曜日	時間	13	時	00	分	～	17	時	00	分	
	曜日		時間		時	00	分	～		時	00	分	
休診日	土・日・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)										✓		
初診時の予約	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
初診時の紹介状の要否	すべての診療科で必要		(すべての診療科で必要／一部の診療科で必要／不要)								✓		
病床数	総病床数	290	床								✓		

診療実績 (平成30年1月1日～12月31日)

年間新入院患者数 ※1	5,886	人	✓
年間新入院小児がん患者数 ※1	256	人	✓
年間新入院患者数に占める小児がん患者の割合	4.3	%	
小児がん入院患者数 ※2	923	人	✓
小児がん入院患者在院延べ日数 ※2	15,465	日	✓
小児がん入院患者における再発患者数 ※3	153	人	✓
外来小児がん患者数 ※4	9,376	人	✓
緩和ケアチームが新規で診療を実施した小児がん患者数 ※5	19	人	✓
セカンドオピニオンの対応を行った小児がん患者数 ※5	9	人	✓
他施設から紹介され受け入れた小児がん患者数 ※5	80	人	✓
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	53	機関	✓
小児がん患者の他施設への紹介患者数 ※6	149	人	✓
小児がん患者を紹介した医療機関数	88	機関	✓

※1 18歳以下を対象とする。年間新入院患者数は総数を計上する。

※2 入院患者数は延べ数で計上する。なお、同一患者が当月中に2回入院した場合には2件とし、入院した患者がその日のうちに退院あるいは死亡した場合も計上する。

※3 18歳以下を対象とする。初回治療後に再発もしくは病態が増悪した入院患者数を延べ数で計上する。初回治療入院中に再発もしくは病態が増悪した場合も計上する。

※4 診断時18歳以下の診断例とする。当年の診療録の作成または記載の追加を行った、新来もしくは再来小児がん患者の延べ数を記入する。同一患者が2つ以上の診療科を受診し、それぞれの診療科で診療録の作成または記載の追加を行った場合、それぞれの外来患者として計上する。

※5 診断時18歳以下の診断例とし、総数を計上する。

※6 診断時に18歳以下であった患者の総数を計上するが、紹介時には18歳を超えていても構わない。

がんに関する専門外来の名称

血液・腫瘍内科外来、長期フォローアップ外来、移植後外来、粒子線外来、放射線治療科外来

✓

届出された先進医療の状況

先進医療への対応状況（小児がんに関するもの）

[別紙1](#)

職員数

総数（事務職員を含む）

944 人

人数 うち常勤（※）

医師

167 167

歯科医師

3 1

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めて

薬剤師
 保健師
 看護師
 准看護師
 理学療法士
 作業療法士
 視能訓練士
 言語聴覚士
 義肢装具士
 診療放射線技師
 臨床検査技師
 衛生検査技師
 臨床工学技士
 管理栄養士
 栄養士
 社会福祉士
 精神保健福祉士
 介護福祉士
 保育士

23	22
0	0
572	569
0	0
3	3
1	1
5	3
5	4
0	0
17	14
26	20
0	0
10	10
6	4
2	0
3	2
1	1
0	0
6	5

いる就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

人数 うち常勤(※)

日本小児血液・がん学会 専門医
 日本小児血液・がん学会 指導医
 日本小児血液・がん学会 暫定指導医
 日本小児血液・がん学会 認定外科医
 日本小児外科学会 専門医
 日本小児外科学会 指導医
 日本小児科学会小児科 専門医
 日本小児神経学会 小児神経専門医
 日本脳神経外科学会 脳神経外科専門
 日本病理学会 病理専門医
 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
 がん治療認定医機構 がん治療認定医
 がん治療認定医機構 暫定教育医
 日本放射線腫瘍学会 認定医
 日本緩和医療学会 緩和医療専門医
 日本緩和医療学会 緩和医療認定医

4	4
1	1
1	1
4	4
6	6
3	3
57	57
2	2
3	3
1	1
0	0
10	10
3	3
3	0
0	0
0	0

※常勤とは当該医療機関で定めている1週間の就業時間すべてを勤務している者をいい、正規・非正規は問わないものとする。ただし、当該医療機関で定めている就業時間が32時間に満たない場合は、常勤とはみなさない。

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

日本看護協会 がん看護専門看護師
 日本看護協会 小児看護専門看護師
 日本看護協会 地域看護専門看護師
 日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
 日本看護協会 緩和ケア認定看護師
 日本看護協会 がん性疼痛看護認定看護師
 日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
 日本看護協会 摂食・嚥下障害看護認定看護師
 日本看護協会 皮膚・排泄ケア認定看護師
 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師
 日本医療薬学会 がん専門薬剤師
 日本臨床細胞学会 細胞検査士
 日本医学放射線学会 医学物理士
 日本放射線治療専門放射線技師認定機構 放射線治療専門放射線技師
 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士
 一般社団法人 日本病態栄養学会/
 公益社団法人 日本栄養士会 がん病態栄養専門管理栄養士
 一般社団法人日本人類遺伝学会
 及び日本遺伝カウンセリング学会 認定遺伝カウンセラー
 一般社団法人日本家族性腫瘍学会 家族性腫瘍カウンセラー
 チャイルドライフスペシャリスト
 ホスピタルプレイスペシャリスト

0	0
3	3
0	0
1	1
1	1
0	0
0	0
1	1
1	1
1	1
0	0
2	2
1	0
8	1
6	3
0	0
0	0
0	0
0	0
3	3

✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓
✓

病院名: 兵庫県立こども病院

「A」項目の充足状況... 76 / 76

100.0%

1 診療体制			A : 必須 B : 望ましい - : 参考	はい: 記載内容を満たしている いいえ: 記載内容を満たしていない		チェック欄に未入力なし	Aの充足状況
(1) 診療機能							
① 集学的治療の提供体制および標準的治療等の提供							
イ	小児がんについて、手術療法、放射線療法および薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療および緩和ケアを提供する体制を有するとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療（以下「標準的治療」という。）等小児がん患者の状態に応じた適切な治療を提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	8	✓	○
	専門とするがんについて別紙2に記載すること。		別紙2		9		
	小児がん患者の病態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、カンサーボード（手術療法、放射線療法および薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師その他の専門を異にする医療従事者等によるがん患者の症状、状態および治療方針等を意見交換・共有・検討・確認等するためのカンファレンスをいう。以下同じ。）を設置し、定期的に開催している。また、必要に応じて、歯科医師や薬剤師、看護師、管理栄養士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士（特に医療ソーシャルワーカー）、公認心理師等の専門的多職種の参加を求めている、カンサーボードで検討した内容については、記録し、関係者間で共有している。	A	はい	(はい／いいえ)	10	✓	○
	カンサーボードの開催回数（平成30年1月1日～12月31日）	-	52	回	11	✓	
	小児がん連携病院と協力し、小児がん患者に対して、移行期医療や成人後の晩期合併症対応等も含めた長期フォローアップ体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	12	✓	○
	長期フォローアップ外来（小児がん経験者の健康管理、晩期合併症の予防、疾病の早期発見・早期治療のための外来）を開設している。	-	はい	(はい／いいえ)	13	✓	
	長期にわたり診療するための具体的な診療体制について別紙3に記載すること。		別紙3		14		
	AYA世代にあるがん患者について、がん診療連携拠点病院等への紹介も含めた適切な医療を提供できる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	15	✓	○
	AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況）について別紙4に記載すること。		別紙4		16		
	急変時等の緊急時に小児がん患者が入院できる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	17	✓	○
ウ	治療に伴う生殖機能への影響など、がん治療開始前に適切な情報提供を行うとともに、患者等の希望も踏まえ、生殖機能の温存の支援を行う体制を構築している。	B	はい	(はい／いいえ)	18	✓	
	生殖機能の温存の支援を行った患者数やその体制について別紙5に記載すること。		別紙5		19		
	保険適応外の免疫療法等の先進的な治療を実施する場合は、科学的知見を集積する観点から、原則として治験、先進医療を含めた臨床研究の枠組みで行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	20	✓	○
② 薬物療法の提供体制					21		
エ	薬物療法のレジメン（治療内容をいう。）を審査し、組織的に管理する委員会を設置している。なお、当該委員会は、必要に応じて、カンサーボードと連携協力すること。	A	はい	(はい／いいえ)	22	✓	○
	薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制について別紙6に記載すること。		別紙6		23		
③ 緩和ケアの提供体制					24		
ア	小児がん拠点病院の指定要件で規定する小児の緩和ケアチーム（以下「緩和ケアチーム」という）を整備し、当該緩和ケアチームを組織上明確に位置付けるとともに、小児がん患者に対し適切な緩和ケアを提供している。	A	はい	(はい／いいえ)	25	✓	○

	緩和ケアチームへの患者紹介の手順について別紙8に記載すること。	別紙8	27			
イ	外来において専門的な小児の緩和ケアを提供できる体制を整備している。	B	はい	(はい／いいえ)	28 ☒	
	緩和ケア外来について別紙9に記載すること。	別紙9	29			
ウ	緩和ケアチーム並びに必要に応じて主治医および看護師等が参加する症状緩和に関するカンファレンスを定期的開催している。	A	はい	(はい／いいえ)	30 ☒ ○	
	緩和ケアチームによるカンファレンスを開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)	-	29	回	31 ☒	
エ	院内の見やすい場所に緩和ケアチームによる診察が受けられる旨の掲示をするなど、小児がん患者およびその家族等に対し必要な情報提供を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	32 ☒ ○	
	情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院広報紙及びホームページ		33	
オ	小児がん連携病院やかかりつけ医等の協力・連携を得て、主治医および看護師が緩和ケアチームと共に、退院後の居宅における緩和ケアに関する療養上必要な説明および指導を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	34 ☒ ○	
カ	小児の緩和ケアに関する要請および相談に関する受付窓口を設けるなど、小児がん連携病院や地域の医療機関および在宅療養支援診療所等との連携協力体制を整備している。	B	はい	(はい／いいえ)	35 ☒	
	緩和ケア病棟について別紙10に記載すること。	別紙10	36			
④ 病病連携・病診連携の協力体制						37
ア	小児がん連携病院や地域の医療機関から紹介された小児がん患者の受入れを行っている。また、小児がん患者の状態に応じ、小児がん連携病院や地域の医療機関等へ小児がん患者の紹介を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	38 ☒ ○	
	地域の医療機関との連携協力体制について別紙11に記載すること。	別紙11	39			
イ	小児がんの病理診断または画像診断に関する依頼や手術療法、放射線療法または薬物療法に関する相談など、小児がん連携病院や地域の医療機関等の医師と相互に診断および治療に関する連携協力体制を整備している。	A	はい	(はい／いいえ)	40 ☒ ○	
ウ	患者の状況等に応じて、地域連携クリティカルパス(拠点病院と小児がん連携病院や地域の医療機関等が作成する診療役割分担表、共同診療計画表および患者用診療計画表から構成される小児がん患者に対する診療の全体像を体系化した表をいう。以下同じ。)を整備している。	B	いいえ	(はい／いいえ)	41 ☒	
エ	ウに規定する地域連携クリティカルパスを活用するなど、小児がん連携病院や地域の医療機関等と協力し、必要に応じて、退院時に当該小児がん患者に関する共同の診療計画の作成等を行っている。	B	いいえ	(はい／いいえ)	42 ☒	
⑤ セカンドオピニオンの提示体制						43
	小児がんについて、手術療法、放射線療法または薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師によるセカンドオピニオン(診断および治療法について、主治医以外の第三者の医師が提示する医療上の意見をいう。以下同じ。)を提示する体制を有している。また、小児がん連携病院がセカンドオピニオンを提示する体制を構築できるよう適切な指導を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	44 ☒ ○	
	セカンドオピニオンの提示体制、問い合わせ窓口について別紙12に記載すること。	別紙12	45			
⑥ その他						46
	小児がん患者の親へのケアを実施している。	-	はい	(はい／いいえ)	47 ☒	
(2)診療従事者						48
用語の定義: 専任:当該診療の実施担当者で、その他の診療を兼任していても差し支えないが、就業時間の少なくとも5割以上、当該診療に従事しているもの。 専従:就業時間の少なくとも8割以上、当該診療に専ら従事しているもの。 ※専任の人数には、専従も含めて記載すること。						49
① 専門的な知識および技能を有する医師の配置						50

ア 放射線診断に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。

A 人 51 ☒ ☐

	放射線診断に携わる医師のうち常勤の人数	-	3	人	52	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	-	12	人	53	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専任の人数	A	12	人 1人以上	54	✓	○
	薬物療法に携わる医師のうち専任かつ常勤の人数	B	12	人	55	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従の人数	B	12	人	56	✓	
	薬物療法に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	-	12	人	57	✓	
ウ	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	3	人 1人以上	58	✓	○
	緩和ケアチームの、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	3	人	59	✓	
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数。	A	1	人 1人以上	60	✓	○
	緩和ケアチームの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師の人数のうち常勤の人数	B	1	人	61	✓	
	緩和ケアチームの身体症状担当医および精神症状担当医の人数。	-	4	人	62	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	3	人	63	✓	
	受講率	-	75.0	%	64		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	2	人	65	✓	
	受講率	-	50.0	%	66		
	小児がん診療において、小児がん患者の主治医や担当医となる者の人数。	-	19	人	67	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	14	人	68	✓	
	受講率	-	73.7	%	69		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	8	人	70	✓	
	受講率	-	42.1	%	71		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、小児がん患者の主治医や担当医となることは想定されないが、主治医等から診察依頼を受けた場合や当直業務などで小児がん患者に対する診療を行うことがある者の人数。	-	141	人	72	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	1	人	73	✓	
	受講率	-	0.7	%	74		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	2	人	75	✓	
	受講率	-	1.4	%	76		
	施設に所属する医師(非常勤務医師も1人としてカウント)のうち、病理診断医や放射線診断医など、小児がん患者との日常的な対面は想定されない者の人数。	-	4	人	77	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	78	✓	
	受講率	-	0.0	%	79		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	80	✓	
	受講率	-	0.0	%	81		
	施設に所属する初期臨床研修2年目から初期臨床研修修了後3年目までのすべての医師の人数。	-	15	人	82	✓	
	うちPEACE(成人の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	83	✓	
	受講率	-	0.0	%	84		
	うちCLIC(小児の緩和ケア研修会)修了者数	-	0	人	85	✓	
	受講率	-	0.0	%	86		
	病院長はPEACE(成人の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	87	✓	
	病院長はCLIC(小児の緩和ケア研修会)を修了している。	-	いいえ	(はい/いいえ)	88	✓	

	エ 病理診断に携わる医師の人数。	-	1	人	89	✓
--	------------------	---	---	---	----	---

	病理診断に携わる医師のうち専従の人数	A	1	人	1人以上	90	✓	○
	病理診断に携わる医師のうち専従かつ常勤の人数	B	1	人		91	✓	
② 専門的な知識および技能を有するコメディカルスタッフの配置								
ア	放射線療法に携わる診療放射線技師の人数。	A	4	人	1人以上	93	✓	○
	放射線療法に携わる診療放射線技師のうち常勤の人数	-	4	人		94	✓	
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等の人数。	A	2	人	1人以上	95	✓	○
	放射線療法における機器の精度管理、照射計画の検証、照射計画補助作業等に携わる技術者等のうち常勤の人数	-	2	人		96	✓	
イ	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師の人数。	-	22	人		97	✓	
	薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する薬剤師のうち常勤の人数	A	20	人	1人以上	98	✓	○
ウ	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の人数。	-	1	人		99	✓	
	緩和ケアチームの、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する看護師の常勤の人数	A	1	人	1人以上	100	✓	○
	緩和ケアチームに協力する薬剤師の人数	B	2	人		101	✓	
	緩和ケアチームに協力する公認心理師の人数	B	1	人		102	✓	
エ	細胞診断に関する業務に携わる者の人数。	B	2	人		103	✓	
オ	小児看護やがん看護に関する専門的な知識および技能を有する専門看護師または認定看護師の人数。	B	7	人		104	✓	
	うち小児がん看護に関する知識や技能を習得している者の人数	B	5	人		105	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する公認心理師又は臨床心理士、社会福祉士(特に医療ソーシャルワーカー)、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等のような、療養を支援する担当者の人数。	B	6	人		106	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する公認心理士又は臨床心理士の人数	-	3	人		107	✓	
	小児科領域に関する専門的な知識を有する社会福祉士の人数	-	3	人		108	✓	
	医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門家であるチャイルド・ライフ・スペシャリスト等の人数	-	0	人		109	✓	
③ その他								
ア	小児がん患者の状態に応じたより適切ながん医療を提供できるよう、各診療科の医師における情報交換・連携を恒常的に推進する観点から、各診療科が参加する話し合いの場等を設置している。	B	はい	(はい／いいえ)		111	✓	
イ	拠点病院の長は、当該拠点病院において小児がん診療に携わる専門的な知識および技能を有する医師の専門性および活動実績等を定期的に評価し、当該医師がその専門性を十分に発揮できる体制を整備している。なお、当該評価に当たっては、手術療法・放射線療法・薬物療法の治療件数(放射線療法・薬物療法については、入院・外来ごとに評価することが望ましい。)、紹介されたがん患者数その他診療連携の実績、論文の発表実績、研修会・日常診療等を通じた指導実績、研修会・学会等への参加実績等を参考とすること。	A	はい	(はい／いいえ)		112	✓	○
	学会・教育・研修活動のための予算が計上されている。	-	はい	(はい／いいえ)		113	✓	
	論文発表、学会発表等を病院業績集等で報告している。	-	はい	(はい／いいえ)		114	✓	
(3) 医療施設								
① 専門的ながん医療を提供するための治療機器及び治療室等の設置								
ア	放射線療法に関する機器を設置している。ただし、当該機器は、リニアックなど、体外照射を行うための機器であること。	A	はい	(はい／いいえ)		117	✓	○
イ	集中治療室を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)		118	✓	○
	集中治療室を設置している場合、一般向けの特集中治療室(ICU)の数	-	0	床		119	✓	
	集中治療室を設置している場合、小児専門の特集中治療室(PICU)の数	-	14	床		120	✓	

ウ 小児がん患者およびその家族が心の悩みや体験等を語り合うための場所およびその機会を設けている。	A	はい	(はい／いいえ)	121	☒	☐
小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況について別紙13に記載すること。		別紙13		122		

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の一覧を別紙14に記載すること。		別紙14	123		
小児がん患者およびその家族を対象とした小児がんの医療・支援に関する勉強会等を開催した回数(平成30年1月1日～12月31日)		3回	124	✓	
② 敷地内禁煙等					
敷地内禁煙の実施等のたばこ対策に積極的に取り組んでいる。		A はい (はい/いいえ)	126	✓	○
敷地内は全面禁煙である。		- はい (はい/いいえ)	127	✓	
(4) 診療実績					
① 小児がんについて年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が30例以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。		A はい (はい/いいえ)	129	✓	○
② 固形腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。		A はい (はい/いいえ)	130	✓	○
③ 造血器腫瘍について年間(平成30年1月1日～12月31日)新規症例数が10例程度以上である(18歳以下の初回治療例を対象とする)。		A はい (はい/いいえ)	131	✓	○
診療実績等について別紙2および別紙15に記載すること。		別紙2・別紙15	132		
(5) その他					
① 小児がん医療について、外部機関による技術能力についての施設認定(以下「第三者認定」という。)を受けた医療施設である。		A はい (はい/いいえ)	134	✓	○
特定非営利活動法人日本小児血液・がん学会が認定する「日本小児血液・がん専門医研修施設」である。		- はい (はい/いいえ)	135	✓	
特定非営利活動法人日本小児外科学会が認定する「認定施設」である。		- はい (はい/いいえ)	136	✓	
② 小児がんに係る骨髄・さい帯血等の移植医療について、第三者認定を受けた医療施設である。		A はい (はい/いいえ)	137	✓	○
公益財団法人骨髄移植推進財団の移植認定病院である。		- はい (はい/いいえ)	138	✓	
日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設である。		- はい (はい/いいえ)	139	✓	
③ 一般社団法人小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置または配置を予定している。		A はい (はい/いいえ)	140	✓	○
上記研修会を受講した医師及び看護師等医療関係者を配置している。		- はい (はい/いいえ)	141	✓	
配置している上記研修会を受講した医師の人数		A 2人	142	✓	○
配置している上記研修会を受講した医師以外の医療関係者の人数		- 2人	143	✓	
(配置していない場合)令和元年度中に講習を受講する予定である。		- (はい/いいえ)	144		
2 研修の実施体制					
小児がん連携病院や地域の医療機関等の多職種の医療従事者も参加する小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等を毎年定期的に開催している。		A はい (はい/いいえ)	146	✓	○
小児がんに関する研修等の回数および研修プログラムの状況について別紙16に記載すること。		別紙16	147		
3 情報の収集提供体制					
(1) 相談支援センター					
小児がん拠点病院の指定要件で規定する相談支援を行う機能を有する部門(以下「相談支援センター」という。なお、相談支援センター以外の名称を用いても差し支えないが、その場合には、がん医療に関する相談支援を行うことが分かる名称を用いることが望ましい。)を設置し、院内の見やすい場所に相談支援センターによる相談支援を受けられる旨の掲示をするなど、相談支援センターについて積極的に広報している。なお、小児がん患者及びAYA世代にあるがん患者に対しては、小児・AYA世代のがんに関する一般的な情報提供、療育・発達への支援等に加えて、ライフステージに応じた長期的な視点から、他の医療機関や行政機関、学校等と連携し、就学・就労・生殖医療等への相談対応や患者活動への支援等の幅広い相談支援が必要となることに十分に留意し、患者のみならず、患者のきょうだいを含めその家族に対する支援も行っている。		A はい (はい/いいえ)	150	✓	○

広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-			151		
相談支援センターの体制について別紙17に記載すること。		別紙17		152		
相談支援センターの状況について別紙18に記載すること。		別紙18		153		
相談支援センターの問い合わせ窓口について別紙19に記載すること。		別紙19		154		
①「小児がん中央機関による研修について」(平成27年3月31日付け厚生労働省健康局がん対策・健康増進課事務連絡)に定める小児がん中央機関が実施する所定の研修を修了した、小児がん患者及びその家族等の抱える問題に対応できる専任の相談支援に携わる者を1人以上配置している。	A	はい	(はい/いいえ)	155	✓	○
②患者やその家族に対し、必要に応じて院内の医療従事者が対応できるように、①に規定する者と医療従事者が協働できる体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	156	✓	○
③院内及び地域の医療従事者の協力を得て、院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの相談等に対応する体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	157	✓	○
相談支援に関し十分な経験を有する小児がん患者団体等との連携協力体制の構築に積極的に取り組んでいる。	B	はい	(はい/いいえ)	158	✓	
小児がん患者団体等との連携について別紙20に記載すること。		別紙20		159		
相談支援センターにおいて、以下の業務を行っている。(相談件数については、別添の留意事項に従って、数えること。なお、1回の相談で複数の内容について相談された場合は、それぞれの項目に計上して良い。)				160		
ア 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	161	✓	○
アの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	71	件	162	✓	
イ 領域別的小児がん診療機能、診療実績および医療従事者の専門とする分野・経歴など、小児がん連携病院等および医療従事者に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	163	✓	○
イの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	8	件	164	✓	
ウ セカンドオピニオンの提示が可能な医師の紹介をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	165	✓	○
ウの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	2	件	166	✓	
エ 小児がん患者の発育及び療養上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	167	✓	○
エの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	85	件	168	✓	
エのうち、アピアランスに関する相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	37	件	169	✓	
オ 小児がん患者の教育上の相談に対応し支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	170	✓	○
オの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	105	件	171	✓	
カ 小児がん連携病院等および医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	172	✓	○
カの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	8	件	173	✓	
キ 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援をしている。	A	はい	(はい/いいえ)	174	✓	○
キの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	18	件	175	✓	
ク AYA世代にあるがん患者に対する治療や就学、就労支援等に関する相談に対応し支援をしている。なお、自施設での対応が困難な場合は、がん診療連携拠点病院等の相談支援センター等と連携を図り、適切に対応している。	A	はい	(はい/いいえ)	176	✓	○
クの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	22	件	177	✓	
ケ 必要に応じて、小児がん連携病院や地域の医療機関等に対して相談支援に関する支援を行っている。	A	はい	(はい/いいえ)	178	✓	○
ケの相談件数(平成30年1月1日～12月31日)	-	2	件	179	✓	
コ その他相談支援に関することをやっている。	A	はい	(はい/いいえ)	180	✓	○

この相談件数(平成30年1月1日～12月31日)

198 件

181 ☒

(2)院内がん登録

① がん登録等の推進に関する法律(平成25年法律第111号)第44条第1項の規定に基づき定められた、院内がん登録の実施に係る指針(平成27年厚生労働省告示第470号)に即して院内がん登録を実施している。	A	はい	(はい/いいえ)	182	☒	☐
院内がん登録に係る実務に関する責任部署を明確にし、当該病院の管理者又はこれに準ずる者を長とし、医師、看護師及び診療情報管理士等から構成され、当該病院における院内がん登録の運用上の課題の評価及び活用に係る規定の策定等を行う機関を設置している。	A	はい	(はい/いいえ)	183	☒	☐
③ 院内がん登録の実務を担う者として、国立がん研究センターが提供する研修で中級認定者の認定を受けている者の人数	A	2	人 1人以上	184	☒	☐
うち専従者の人数	-	2	人	185	☒	☐
配置された者は国立がん研究センターが示すがん登録に係るマニュアルに習熟している。	A	はい	(はい/いいえ)	186	☒	☐
④ 院内がん登録の登録様式については、国立がん研究センターが提示する院内がん登録に係る標準様式に準拠している。	A	はい	(はい/いいえ)	187	☒	☐
⑤ 適宜、登録対象者の生存の状況を確認している。	-	はい	(はい/いいえ)	188	☒	☐
⑥ 院内がん情報等を全国規模で収集し、当該情報を基にしたがん統計等の算出等を行うため、毎年、国立がん研究センターに情報提供している。	-	はい	(はい/いいえ)	189	☒	☐
⑦ 院内がん情報を取り扱うに当たっては、情報セキュリティに関する基本的な方針を定めている。	B	はい	(はい/いいえ)	190	☒	☐
⑧ 院内がん登録を活用することにより、都道府県の実施するがん対策等に必要情報を提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	191	☒	☐

(3)診療実績、診療機能等の情報提供

小児がん及びAYA世代で発症するがんについて、自施設及び自らが指定した小児がん連携病院の診療実績、診療機能及び医療従事者の専門とする分野・経歴などを、わかりやすく情報提供している。	A	はい	(はい/いいえ)	192	☒	☐
情報提供の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のホームページに記載		193	☒	☐

(4)その他

地域住民に対する病院、相談支援センター、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟(設置されているのみ)に関するアピールを別紙21に記載すること。		別紙21		194	☒	☐
--	--	------	--	-----	-------------------------------------	--------------------------

4 臨床研究に関すること

他の拠点病院や小児がん連携病院とも連携し、オールジャパン体制で臨床研究を推進している。	A	はい	(はい/いいえ)	195	☒	☐
(1) 治験を除く臨床研究を行うに当たっては、臨床研究法(平成29年法律第16号)に則った体制を整備している。	A	はい	(はい/いいえ)	196	☒	☐
(2)-1 進行中の臨床試験(治験を除く。以下同じ。)の概要および過去の臨床試験の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	197	☒	☐
広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のホームページに記載		198	☒	☐
(2)-2 進行中の臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)の概要および過去の臨床研究の成果を広報している。	A	はい	(はい/いいえ)	199	☒	☐
広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	病院のホームページに記載		200	☒	☐
(3) 参加中の治験について、その対象であるがんの種類および薬剤名等を広報している。	B	はい	(はい/いいえ)	201	☒	☐
広報の手段について、簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	内掲示、ホームページへの掲載		202	☒	☐
(4) 臨床研究を支援する専門の部署を設置している。	B	はい	(はい/いいえ)	203	☒	☐
設置していない場合は設置の予定時期	-	年 月	(西暦XXXX年XX月)	204	☒	☐

	臨床研究を支援する専門の各部門のメンバーについて別紙22に記載すること。		別紙22		209
(5)	臨床研究コーディネーター（CRC）を配置している。	B	はい	（はい／いいえ）	210
					✓

臨床研究コーディネーターを配置している場合、その人数		-	2	人	211	☒	
臨床研究の問い合わせ窓口について別紙23に記載すること。			別紙23		212		
臨床研究の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)		-	16	件	213	☒	
臨床試験以外の臨床研究実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)		-	2	件	214	☒	
治験の実施総件数(平成30年1月1日～12月31日)		-	4	件	215	☒	
5 患者の発育および教育等に関して必要な環境整備							
(1)	保育士を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	217	☒	☐
	保育士の人数	-	8	人	218	☒	
	保育士のうち常勤の人数	-	5	人	219	☒	
(2)	病弱等の特別支援学校または小中学校の病弱・身体虚弱等の特別支援学級による教育支援(特別支援学校による訪問教育を含む。)が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	220	☒	☐
	特別支援学校(養護学校)の分校・分教室がある。	-	はい	(はい／いいえ)	221	☒	
	特別支援学校(養護学校)による訪問教育を行っている。	-	いいえ	(はい／いいえ)	222	☒	
	病院内に特別支援学級が設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	223	☒	
	高等学校段階においても必要な教育支援を行っている。	-	はい	(はい／いいえ)	224	☒	
(3)	退院時の復園および復学支援が行われている。	A	はい	(はい／いいえ)	225	☒	☐
	教育支援、復園・復学支援の状況について別紙24に記載すること。		別紙24		226		
(4)	子どもの発達段階に応じた遊戯室等を設置している。	A	はい	(はい／いいえ)	227	☒	☐
	AYA世代(思春期および若年成人)のための場所を確保している。	-	はい	(はい／いいえ)	228	☒	
(5)	家族等が利用できる長期滞在施設またはこれに準じる施設が整備されている。	A	はい	(はい／いいえ)	229	☒	☐
	部屋数	-	16	部屋	230	☒	
	長期滞在施設が自施設内に設置されている。	-	はい	(はい／いいえ)	231	☒	
	長期滞在施設またはこれに準じる施設について別紙25に記載すること。		別紙25		232		
(6)	家族等の希望により、24時間面会または患者の付き添いができる体制を構築している。	A	はい	(はい／いいえ)	233	☒	☐
(7)	患者のきょうだいに対する保育の体制整備を行っている。	B	いいえ	(はい／いいえ)	234	☒	
6 PDCAサイクル							
(1)	自施設及び小児がん連携病院の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者の療養生活の質について把握・評価し、課題認識を関係者で共有した上で、適切な改善策を講じている。	A	はい	(はい／いいえ)	236	☒	☐
	把握・評価の方法、改善策等について別紙26に記載すること。		別紙26		237		
(2)	これらの実施状況につき、地域ブロック協議会において、情報共有と相互評価を行うとともに、地域に対してわかりやすく広報を行っている。	A	はい	(はい／いいえ)	238	☒	☐
	地域への広報の手段について簡潔に記載すること(例:医療機関のwebサイトに掲載)	-	県病院局のホームページに掲載		239		
7 医療安全体制							
(1)	組織上明確に位置づけられた医療に係る安全管理を行う部門(以下「医療安全管理部門」という。)を設置し、病院一体として医療安全対策を講じている。また、当該部門の長として常勤の医師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	241	☒	☐
(2)	医療に係る安全管理を行う者(以下「医療安全管理者」という。)として(1)に規定する医師に加え、専任で常勤の薬剤師及び専従で常勤の看護師を配置している。	A	はい	(はい／いいえ)	242	☒	☐

(3) 医療安全管理者は、医療安全対策に係る研修を受講している。	A	はい	(はい／いいえ) ²⁴³	☒	☐
----------------------------------	---	----	-------------------------	-------------------------------------	-----------------------

(4) 当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施している。	-	はい	(はい／いいえ)	244	✓	
当該施設で未承認新規医薬品の使用や承認薬の適応外使用や高難度新規医療技術を用いた医療の提供を実施する場合は、以下の体制を整備している。※上段で「いいえ」の場合、以下の3つの項目は、「-」を選択してください。				245		
① 当該医療の適応の安全性や妥当性、倫理性について検討するための組織(倫理審査委員会、薬事委員会等。なお当該組織は既設の組織であっても構わない。)において、病院として事前に検討を行っている。	A	はい	(はい／いいえ／-)	246	✓	○
② 事前検討を行い、承認された医療を提供する際には、患者・家族に対し適切な説明を行い、書面での同意を得た上で提供している。	A	はい	(はい／いいえ／-)	247	✓	○
③ 提供した医療について、事後評価を行っている。	A	はい	(はい／いいえ／-)	248	✓	○
(5) 医療安全のための患者窓口を設置し、患者からの苦情や相談に応じられる体制を確保している。	A	はい	(はい／いいえ)	249	✓	○
医療安全体制について別紙27に記載すること。		別紙27		250		

先進医療への対応状況(小児がんに関するもの)

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在(実施件数は平成31年4月1日～令和元年7月31日)

先進医療窓口情報							
先進医療の実施		実施しています	(実施しています／実施していません)				
先進医療A	問い合わせ窓口	窓口があります	(窓口があります／窓口がありません)				
	窓口名	医事企画課					
	技術名	該当なし					
	電話番号	代表	078-945-7300	内線			
		直通	078-945-7304				
	対象となる病名・病状						
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)			件			
先進医療B	問い合わせ窓口	窓口があります	(窓口があります／窓口がありません)				
	窓口名	医事企画課					
	技術名	該当なし					
	電話番号	代表	078-945-7300	内線			
		直通	078-945-7304				
	対象となる病名・病状						
	実施件数(平成31年4月1日～令和元年7月31日)			件			

各種小児がんの情報

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

小児がんについての対応状況を記載してください。
※ 各医療機関において「専門とするがん」とは、集学的治療および緩和ケアを提供する体制が整備されているとともに、各学会の診療ガイドラインに準ずる標準的治療等のがん患者の状態に応じた適切な治療を提供する体制が整備されているがんのことをさします。
※ 診療を実施していないがんについて、表の記載は不要です。
※ 内視鏡下手術用ロボットを用いた手術に関しては、その他の治療法の欄に記載すること。

✓チェック欄
に未入力なし

小児脳腫瘍

集学的治療の実施状況

○

(○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

病院名: 兵庫県立こども病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージなど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 （5診療科まで）	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている医 師数		手術	化学 療法	放射線療法				陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください				※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください	掲載されている内容				
						体外 照射	定位 放射線 療法	IMRT	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)			治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野		
1	脳神経外科	4	4	状況	○	○	×	×	×	×	×				悪性脳腫瘍の集学的治療については、 血液・腫瘍科、放射線科、病理の専門 医からなるチームにより治療を進めてい ます。	脳神経外科 診療の 特色	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/medical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	あり	なし	なし	なし	なし	なし						脳神経外科 疾患と 症例	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/medical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2	放射線治療科	3	3	状況	×	×	○	×	×	×	○				放射線治療は放射線治療専門医により 治療計画され、全身照射や局所照射を 行います。隣接している神戸陽子線セ ンターと協力し陽子線治療を行ってお ります。鎮静が必要な例には常勤の麻酔 科医が対応しており、化学療法併用例 も対応しております。	放射線治療科 診療 の特色	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/medical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	あり	なし	なし	なし	あり					神戸陽子線センター 小児がん治療	https://www.kobe-pc.jp/childhood.html	掲載あり	掲載なし	掲載なし
3	血液・腫瘍内科	13	13	状況	×	○	×	×	×	×	×				日本小児がん研究グループ(JCGG)に 所属しており、多施設共同研究の成果 に基づいた全国共通治療プロトコル で治療を行なっています。	血液・腫瘍内科 診療 の特色	http://150.60.164.35/new.site/medical/blood/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	あり	なし	なし	なし	なし	なし					血液・腫瘍内科 疾患 と症例	http://150.60.164.35/new.site/medical/blood/case.php#performance	掲載あり	掲載あり	掲載あり
4	麻酔科	21	21	状況	×	×	×	×	×	×	×				腰椎穿刺等の痛みを伴う処置は原則的 に病棟で麻酔科医による病棟麻酔下で 行います。患児にとって安全であるだけ でなく可能な限り痛みを覚えることなく治 療ができるよう配慮しています。	麻酔科 診療の特色	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/medical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし						http://			
5				状況													http://			
				実績													http://			

その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください		治療名	治療内容
他の治療(1)			
他の治療(2)			
他の治療(3)			
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日		小脳腫瘍、中枢神経系非定型奇形腫瘍/ラブドイド腫瘍、中枢神経系胚細胞腫瘍、中枢神経系胚芽腫、星細胞腫、脳幹グリオーマ、上衣腫、膠芽腫、転移性脳腫瘍、膠芽腫、神経膠腫、乏稀突起細胞腫	

小児の眼・眼窩腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日											当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ						
主な診療科名 （5診療科まで）	医師数	当該疾患を専門としている医師数		手術	冷凍凝固術	光凝固術	化学療法	眼動注	放射線療法			陽子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください							各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	
									体外照射	IMRT	小線源治療		他の治療(1)	他の治療(2)							他の治療(3)
見出し		アドレス		掲載されている内容	治療内容	治療実績	医師の専門分野														
1	眼科	4	4	状況	○	×	○	×	×	×	×	×				疾患の進行度に応じて、網膜芽細胞腫に対する化学療法を用いての眼球温存治療を積極的に行っています。	眼科 診療の特色	http://150.60.164.35/new_site/medical/ophthalmology/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	あり	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし					眼科 疾患と症例、診療実績	http://150.60.164.35/new_site/medical/ophthalmology/case.php#performance	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2	放射線治療科	3	3	状況	×	×	×	×	×	○	×	×	○			放射線治療は放射線治療専門医により治療計画され、全身照射や局所照射を行います。隣接している神戸陽子線センターと協力し陽子線治療を行っております。鎮静が必要な例には常勤の麻酔科医が対応しており、化学療法併用例も対応しております。	放射線治療科 診療の特色	http://www.hvgo-kodomo-hosp.com/medical/ https://www.kobe-gc.jp/childhood.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし					神戸陽子線センター 小児がん治療		掲載あり	掲載なし	掲載なし
3	血液・腫瘍内科	13	13	状況	×	×	×	○	×	×	×	×	×			日本小児がん研究グループ（JCCG）に所属しており、多施設共同研究の成果に基づいた全国共通治療プロトコールで治療を行なっています。	血液・腫瘍内科 診療の特色	http://150.60.164.35/new_site/medical/blood/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし					血液・腫瘍内科 疾患と症例	http://150.60.164.35/new_site/medical/blood/case.php#performance	掲載あり	掲載あり	掲載あり
4				状況														http://			
				実績														http://			
5				状況														http://			
				実績														http://			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください						治療名						治療内容									
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日						網膜芽腫															

小児悪性骨軟部腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日												当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 （5診療科まで）	医師数	当該疾患を専門としている医師数	手術				化学療法	放射線療法		陽子線治療	重粒子線治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と合わせてください			各診療科における当該疾患の治療の特色・患者さんへのメッセージなど	※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		掲載されている内容			
			切・離断術	患肢温存術	再建術	骨移植術		体外照射	小線源治療			他の治療(1)	他の治療(2)	他の治療(3)		見出し	アドレス	治療内容	治療実績	医師の専門分野	
1 整形外科	6	6	状況	○	○	○	○	×	×	×	×	×				小児腫瘍疾患についても常に最先端医療を提供できるよう、国内外の関連学会への参加、他の小児病院の医師との交流を通じてそれぞれの疾患に対してスタンダードな治療を行っています。	整形外科 診療の特色	http://150.60.164.35/new_site/medical/orthopedics/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし					整形外科 疾患と症例	http://150.60.164.35/new_site/medical/orthopedics/case.php#case	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2 耳鼻咽喉科	2	2	状況	×	×	○	×	×	×	×	×	×				小児腫瘍疾患についても常に最先端医療を提供できるよう、国内外の関連学会への参加、他の小児病院の医師との交流を通じてそれぞれの疾患に対してゴールドスタンダードな治療を行っています。	耳鼻咽喉科 診療の特色	http://150.60.164.35/new_site/medical/otolaryngology/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし					耳鼻咽喉科 疾患と症例	http://150.60.164.35/new_site/medical/otolaryngology/case.php#case	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3 形成外科	3	3	状況	×	×	○	×	×	×	×	×	×				小児腫瘍疾患についても常に最先端医療を提供できるよう、国内外の関連学会への参加、他の小児病院の医師との交流を通じてそれぞれの疾患に対してゴールドスタンダードな治療を行っています。	形成外科 診療の特色	http://150.60.164.35/new_site/medical/formation/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし					形成外科 診療実績	http://150.60.164.35/new_site/medical/formation/case.php#performance	掲載あり	掲載あり	掲載あり
4 放射線治療科	3	3	状況	×	×	×	×	×	○	×	○	○				放射線治療は放射線治療専門医により治療計画され、全身照射や局所照射を行います。隣接している神戸陽子線センターと協力し陽子線治療を行っております。鎮静が必要な例には常勤の麻酔科医が対応しており、化学療法併用例も対応しております。	放射線治療科 診療の特色	http://www.hyogo-kodomo-hospital.com/medical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	なし	あり	なし	あり	あり					神戸陽子線センター 小児がん治療	https://www.kobe-hospital.jp/childhood.html	掲載あり	掲載なし	掲載なし
5 血液・腫瘍内科	13	13	状況	×	×	×	×	○	×	×	×	×				日本小児がん研究グループ（JCOG）に所属しており、多施設共同研究の成果に基づいた全国共通治療プロトコルで治療を行なっています。	血液・腫瘍内科 診療の特色	http://150.60.164.35/new_site/medical/blood/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
			実績	なし	なし	なし	なし	あり	なし	なし	なし	なし					血液・腫瘍内科 疾患と症例	http://150.60.164.35/new_site/medical/blood/case.php#performance	掲載あり	掲載あり	掲載あり
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください				治療名								治療内容									
他の治療(1)																					
他の治療(2)																					
他の治療(3)																					
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				ユーイング肉腫、横紋筋肉腫																	

その他の小児固形腫瘍

集学的治療の実施状況 ○ (○:専門とするがん/×:診療を実施していないがん)

OK

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況（○：実施可／×：実施不可） 昨年の実績（あり／なし） ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ				
主な診療科名 （5診療科まで）	医師 数	当該疾 患を専 門とし て いる医 師数		手術	化学 療法	放射線療法		陽子線 治療	その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください			掲載されている内容				
						体外 照射	小線源 治療		他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)								
1	小児外科	11	11	状 況	○	×	×	×	×					血液・腫瘍内科と小児外科、放射線科、 病理科の医師が参加する腫瘍カンファ レンスでそれぞれ専門的な立場から集 学的な治療法に関するディスカッション を行い治療方針を決定します。	小児外科 診療の特色	http://150.60.164.35/new_s ite/medical/pediatric/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実 績	あり	なし	なし	なし	なし						小児外科 疾患と症 例、診療実績	http://150.60.164.35/new_s ite/medical/pediatric/case. php#case	掲載あり	掲載あり	掲載あり
2	放射線治療科	3	3	状 況	×	×	○	×	○					放射線治療は放射線治療専門医により 治療計画され、全身照射や局所照射を 行います。隣接している神戸陽子線セ ンターと協力し陽子線治療を行ってお ります。鎮静が必要な例には常勤の麻酔 科医が対応しており、化学療法併用例 も対応しております。	放射線治療科 診療 の特色	http://www.hvogo- kodomo- hosp.com/medical/ https://www.kobe- pc.jp/childhood.htm	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実 績	なし	なし	あり	なし	あり						神戸陽子線センター 小児がん治療		掲載あり	掲載なし	掲載なし
3	血液・腫瘍内科	13	13	状 況	×	○	×	×	×					日本小児がん研究グループ(JCOG)に 所属しており、多施設共同研究の成果 に基づいた全国共通治療プロトコール で治療を行なっています。	血液・腫瘍内科 診療 の特色	http://150.60.164.35/new_s ite/medical/blood/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実 績	なし	あり	なし	なし	なし						血液・腫瘍内科 疾患 と症例	http://150.60.164.35/new_s ite/medical/blood/case.ph p#performance	掲載あり	掲載あり	掲載あり
4	麻酔科	21	21	状 況	×	×	×	×	×					腰椎穿刺や骨髄穿刺等の痛みを伴う処 置は原則的に病棟で麻酔科医による病 棟麻酔下で行います。患児にとって安全 であるだけでなく可能な限り痛みを覚 えることなく治療ができるよう配慮して います。	麻酔科 診療の特色	http://www.hvogo- kodomo- hosp.com/medical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実 績	なし	なし	なし	なし	なし							http://			
5				状 況												http://			
				実 績												http://			
その他の治療法 ※上記の実施状況・実績欄と合わせて記載してください					治療名					治療内容									
他の治療(1)																			
他の治療(2)																			
他の治療(3)																			
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日					神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫、骨外性ユーイング肉腫、未分化肉腫														

当該疾患の診療を担当している 診療科名と医師数				治療の実施状況 (○:実施可/×:実施不可) 昨年の実績 (あり/なし) ※平成30年1月1日～12月31日										各診療科における当該疾患の治療 の特色・患者さんへのメッセージな ど	当該疾患の治療に関する内容が掲載されているページ					
主な診療科名 (5診療科まで)	医師 数	当該疾 患を専 門とし ている 医師数	化学 療法	移植			放射線療法		その他の治療法があれば記載 ※下記のその他の治療法欄と 合わせてください			※トップページ以外を2つまで記載してください ※アドレスは、手入力せずにホームページから コピーしてください			掲載されている内容					
				自家末 梢血幹 細胞移 植	血縁者 間同種 造血幹 細胞移 植	非血縁者 間同種骨 髄移植ま たは臍帯 血移植	体外 照射	全身 照射	他の 治療(1)	他の 治療(2)	他の 治療(3)				治療 内容	治療 実績	医師の 専門 分野			
見出し															アドレス					
1	血液・腫瘍内科	13	13	状況	○	○	○	○	×	×					日本小児がん研究グループ(JCCG)に 所属しており、多施設共同研究の成果 に基づいた全国共通治療プロトコル で治療を行なっています。	放射線治療科 診療 の特色	http://www.hvogo-kodomo-hosp.com/medical/https://www.kobe-pc.jp/childhood.html	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	あり	あり	あり	あり	なし	なし						神戸陽子線センター 小児がん治療		掲載あり	掲載なし	掲載なし
2	放射線治療科	3	3	状況	×	×	×	×	○	○					放射線治療は放射線治療専門医により 治療計画され、全身照射や局所照射を 行います。隣接している神戸陽子線セ ンターと協力し陽子線治療を行ってお ります。鎮静が必要な例には常勤の麻酔 科医が対応しており、化学療法併用例 も対応しております。	血液・腫瘍内科 診療 の特色	http://150.60.164.35/new.s ite/medical/blood/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	なし	あり	あり						血液・腫瘍内科 疾患 と症例	http://150.60.164.35/new.s ite/medical/blood/case.ph p#performance	掲載あり	掲載あり	掲載あり
3	小児外科	11	11	状況	×	×	×	×	×	×					診断時の生検の他、プロトコル治療 が安全に実施できるよう、中心静脈力 テーテル挿入術等について小児外科専 門医が担っている。	小児外科 疾患と症 例	http://www.hvogo-kodomo-hosp.com/medical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし							http://			
4	麻酔科	21	21	状況	×	×	×	×	×	×					骨髄穿刺等の痛みを伴う処置は原則的 に病棟で麻酔科医による病棟麻酔下で 行います。患児にとって安全であるだけ でなく可能な限り痛みを覚えることなく治 療ができるよう配慮しています。	麻酔科 診療の特色	www.hvogo-kodomo-hosp.com/medical/	掲載あり	掲載あり	掲載あり
				実績	なし	なし	なし	なし	なし	なし							http://			
5				状況													http://			
				実績													http://			
その他の治療法 ※上記の実績欄と合わせて記載してください				治療名							治療内容									
他の治療(1)																				
他の治療(2)																				
他の治療(3)																				
治療実績のある疾患名 ※平成30年1月1日～12月31日				悪性リンパ腫、急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、ランゲルハンス細胞組織球症、慢性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群、一過性異常骨髄増殖症																

長期にわたり診療するための具体的な診療体制

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

自施設内における長期フォローアップの体制、他施設との連携による長期フォローアップの体制等について具体的に記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、ファイル名の頭に別紙3を付けた電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

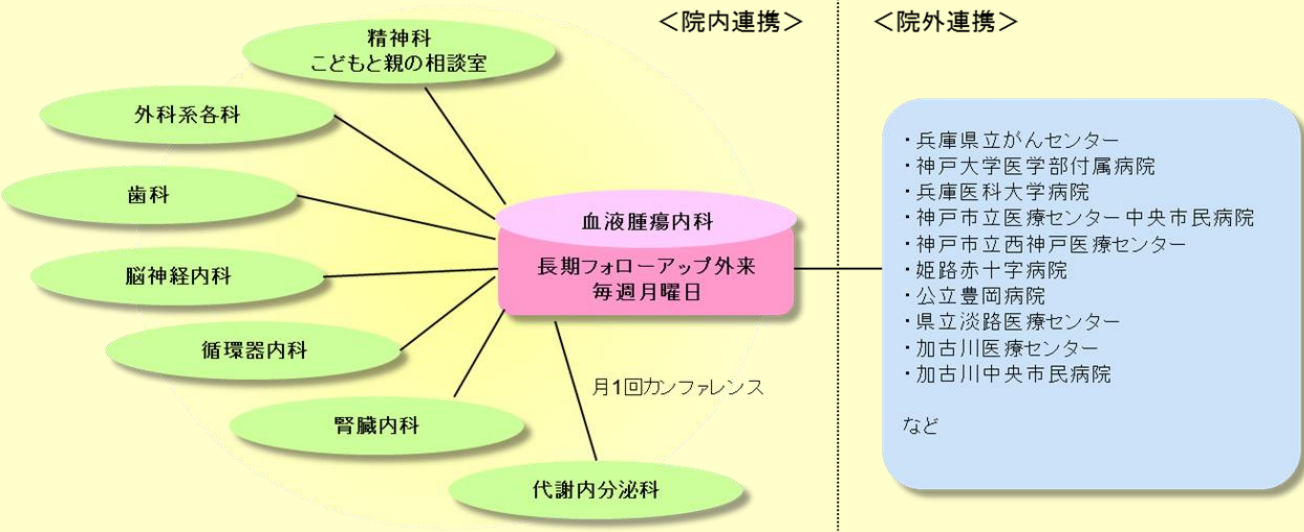
(ワード／－太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

長期フォローアップ外来を毎週月曜日に開設し、小児がん経験者の晩期合併症について各種検査・診察を行い、必要に応じて院内の各診療科にコンサルトできる体制をとっている。
特に、高頻度に晩期合併症が発生する内分泌疾患については、代謝内分泌科と毎月症例検討を行い、介入について協議している。
成人期に達したキャリアオーバーについては、成人診療科を含む県内がん診療の拠点病院、兵庫県医師会、行政と一体となって兵庫県小児がんサポーター検討会（2018年3月発足）を運営し、ライフステージに応じた多様なニーズに対応した長期フォローアップ体制の整備を進めている。

長期フォローアップの体制



AYA世代への診療提供体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

AYA世代への診療提供体制（自施設・他施設の成人診療科との連携状況等）について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙4を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

（あり／なし）

ファイル形式

（ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他）

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

AYA世代においては、年代によって、就学、就労等の状況や心理社会的状況が様々であることから、個々の状況に応じ、多様なニーズを踏まえた、全人的ながん医療及び支援を提供することを目指して療養環境の整備を行っている。AYA世代にあるがん患者については、小児専門病院である当院単独で対応できない症例については、県内の成人のがん拠点病院等と連携を図っている。小児がん診療施設を代表して兵庫県がん診療連携協議会に参加し、情報の交換に努める他、必要に応じてがん診療連携拠点病院等への紹介も行う。また逆に、急性白血病や肉腫などの希少がんについては成人領域のがん診療病院からの紹介についても積極的に受け入れている。

1) AYA世代への情報提供・相談支援： がん相談支援室において院内外の小児がん患者・AYA世代にある患者及びその家族並びに地域の住民及び医療機関等からの治療や就学、就労支援等に関する相談等に対応している。同時に患者とその家族だけでなく、関連地域医療機関職員を対象とした説明会や教育プログラム（小児・AYA世代が家族教室）の提供を通じて情報提供の機会拡大に努めている。自施設での対応が困難な場合は、兵庫県がん診療連携協議会等と連携を図り適切に対応している。

2) 療養・発育への支援： プライバシー等に配慮した療養環境を提供できるよう努める他、同世代の患者によるピア・サポートの機会を提供している。アピランスケア部会を立ち上げ、アピランスケア提供の準備を行っている。

3) 学校・教育機関との連携による就学・就労へ相談対応等： 文部科学省の「病気療養児の教育の充実」に係る通知を受けて、兵庫県教育委員会を含めた教育行政担当者との連携を進めており、高校生への教育支援の充実を図っている。希望者には、通信制高校（兵庫県立青雲高校）への転校と原籍校との連携により、レポート、登校学習、年2回の試験により単位取得を行い、編入試験や学校長の許可を経て原籍校へ編入できる枠組みを整えた。加えて2019年より神戸市教育委員会との連携により院内でICTを活用した教育ツール（「みんなの学習クラブ」）による補助学習や、ボランティアを活用した高校生への個別学習指導体制を導入している。

4) 小児がんの晩期合併症や移行期医療に対応するための診療体制の構築： 兵庫県医師会、兵庫県がん診療連携協議会、神戸大学7大学連携個別化がん医療実践者養成プランの協力を得て、2018年3月に「小児がん等サポーター検討会」を発足した。小児がん及び成人がん診療病院のみならず、行政関係者、医師会の協力を得てライフステージと療養・就労状況に応じた長期フォローアップシステムを構築している。尚、小児血液・がん学会が主催する「小児・AYA世代のがんの長期フォローアップに関する研修会」を関係職員が順次受講できるよう支援している。

5) 生殖医療への相談対応： 治療前に晩期合併症としての性腺障害の可能性について伝え、希望者には妊孕性温存のための取り得る選択肢について情報提供を行っている。兵庫県がん診療連携協議会との連携により、2017年1月に兵庫県がん・生殖医療ネットワークを設立し、女性患者に対して治療前の卵巣組織凍結保存ができる環境を整えた。男性患者に対する精子保存の他、同ネットワークを通じた卵子・卵巣組織凍結保存について情報・機会提供している。2019年9月までに7名のAYAがん患者について卵子・卵巣組織凍結保存を行った。

通信制高校（兵庫県立青雲高校）への転校のイメージ図
～兵庫県病院局企画課～



生殖機能の温存の支援を行う体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 兵庫県立こども病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在(患者数は平成30年1月1日～12月31日)

■生殖機能の温存の支援を行った患者数について記載すること。

がんの治療に際する妊よう性温存目的で精子保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	3
がんの治療に際する妊よう性温存目的で未受精卵子、受精卵(胚)、あるいは、卵巢組織の凍結保存を行った患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	1
がんの治療に際する妊よう性温存のために、妊よう性温存ができる他の施設へ紹介した患者の数(平成30年1月1日～12月31日)	5

OK

■生殖機能の温存の支援を行う体制について記載すること。(他施設との連携がある場合は、その連携についても記載すること)

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙5を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

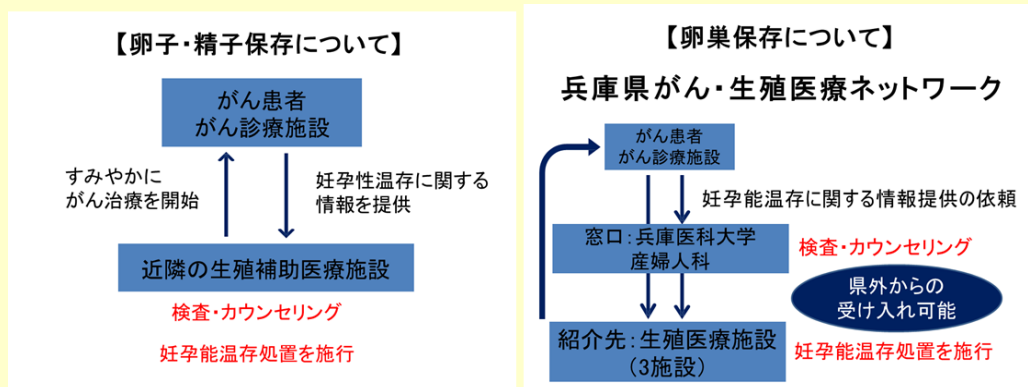
OK

ファイル形式

(ワード/一太郎/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

治療前に晩期合併症としての性腺障害の可能性について伝え、希望者には妊孕性温存のための取り得る選択肢について情報提供を行っている。兵庫県がん診療連携協議会との連携により、2017年1月に兵庫県がん・生殖医療ネットワークを設立し、女性患者に対して治療前の卵巢組織凍結保存ができる環境を整えた。男性患者に対する精子保存の他、同ネットワークを通じた卵子・卵巢組織保存について情報・機会提供している。



薬物療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の組織・体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：兵庫県立こども病院

開催された委員会の総件数：4

時期・期間：平成30年1月1日～12月31日

OK

化学療法のレジメンを審査し、組織的に管理する委員会の名称、開催頻度、委員会のメンバーを記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

委員会の名称	薬事委員会化学療法レジメン部会	
委員会の開催頻度	定例委員会：1回/3か月、他、事例に応じて適宜臨時委員会を開く	
委員会のメンバー	職種	役職
例	医師、看護師、薬剤師	腫瘍内科センター長、薬剤部長、副看護部長
1	医師	血液・腫瘍内科部長
2	医師	脳神経外科部長
3	医師	腎臓内科医長
4	医師	リウマチ科医長
5	医師	血液・腫瘍内科医長
6	事務職	医事企画課担当課長補佐
7	看護師(3名)	看護部次長・血液病棟看護師長・外来看護師
8	薬剤師(2名)	薬剤部次長・病棟薬剤師
9		
10		

OK

緩和ケアチームの組織・体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

緩和ケアチームの総人数：

9

OK

緩和ケアチームの名称、メンバー等を記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。なお、身体症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、精神症状の緩和に携わる専門的な知識および技能を有する医師（常勤であることが望ましい）、緩和ケアに携わる専門的な知識および技能を有する常勤の看護師は指定要件に含まれることに留意して記載すること。

緩和ケアチームの名称		にこにこさぽーとチーム		
職種		常勤／非常勤	専門分野	資格等
例	医師、看護師、薬剤師		麻酔科、精神科、がん看護	緩和ケアに関するものを3つまで記載してください。
1	医師	常勤	精神科	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
2	医師	常勤	麻酔科	緩和ケアチームのための小児緩和ケア教育研修修了
3	医師	常勤	血液・腫瘍内科	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
4	医師	常勤	血液・腫瘍内科	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、小児がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
5	薬剤師	常勤		
6	薬剤師	常勤		
7	臨床心理士	常勤		
8	看護師	常勤	緩和ケア	
9	看護師	常勤	がん看護	
10				

OK

緩和ケアチームへの患者紹介の手順

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：兵庫県立こども病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

緩和ケアチームへの患者紹介の手順について記載すること。必要に応じて図を用いても構いません。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙8を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

対象患者の選定

- ①主治医・看護師・心理士等のスタッフが電子カルテシステムを通して緩和ケアチームへ介入依頼を提出する
または
- ②緩和ケアチームが主治医へ介入を提案する

緩和ケアチーム内での事前評価

- ③緩和ケアチーム内で介入依頼内容を確認・評価する
- ④緩和ケアチームがカンファレンスにて協議する

緩和ケア計画の策定

- ⑤緩和ケアチームと主治医で緩和ケア実施計画書を作成する

患者説明

- ⑥緩和ケアチームから患者・家族へ介入内容について説明する
- ⑦患者・家族の同意を得たのちに介入を開始する

緩和ケア外来の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

1	緩和ケア外来が設定されている（はい/いいえ）										いいえ	OK
2	緩和ケア外来の名称											
3	担当診療科名											
4	主な診療内容・特色											
5	緩和ケア外来の説明が掲載されているページ											
	見出し											
	アドレス		http://									
6	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）										いいえ	
7	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										いいえ	OK
	窓口の名称											
	電話	代表		(内線)				直通				
8	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										はい	OK
	窓口の名称										家族支援・地域医療連携部	
	電話	代表	078-945-7300	(内線)				直通				

緩和ケア病棟の状況

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

下のチェック欄で「未入力あり」がないか確認してください

病院名：兵庫県立こども病院

時期・期間：令和元年9月1日現在

※緩和ケア病棟が設定されている場合に限り、「2」以降を記載してください。

1	緩和ケア病棟を有している	病棟がありません				
2	緩和ケア病棟入院料の届出・受理					
3	小児の入院可否					
4	緩和ケア病棟の形式					
5	緩和ケア病棟の病床数		床			
6	緩和ケア病棟の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください。	見出し				
		アドレス	http://			
7	他施設でがんの診療を受けている、または、診療を受けていた患者さんを受け入れている（はい/いいえ）					
8	入院予約後の入院までの待機期間 ※転棟、緊急入院を除く					
9	緩和ケア病棟を担当するスタッフの職種・人数(人) ※常勤・非常勤、専従・専任・兼任などに関わらず、緩和ケア病棟の診療に携わっているスタッフについて記載してください。	(例) 医師	2	(例) 精神保健福祉士	1	

OK

10	■地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										未入力あり
	窓口の名称										
	電話	代表		（内線）				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
11	■地域の医療機関向けの問い合わせ窓口が設定されている（はい/いいえ）										未入力あり
	窓口の名称										
	電話	代表		（内線）				直通			
	問い合わせ窓口について掲載しているホームページ	見出し			アドレス	http://					
12	緩和ケア病棟の設備	例：家族用キッチン、家族室、談話室、ランドリー、デイルーム（食事や面会者との談話、ボランティアによるティーサービスがある）、特殊入浴室									
13	訪問看護ケアの有無	例：自施設で実施している、同一医療法人の施設で実施している、連携している訪問看護ケアステーションを紹介している、など									

地域の医療機関との連携協力体制

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：**兵庫県立こども病院**

時期・期間：令和元年9月1日現在

地域の医療機関との連携協力体制について自施設の取り組みや今後の予定を記載すること。（例：診療実績の少ない●●については××病院と協力。●●治療については××病院へ紹介。小児がん患者の在宅医療については●●診療所と連携し、急変時には受け入れることとしている。成人領域については××病院と協力し定期的に情報共有を図っている。）**2枚におさめること。**

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙11を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 **なし** (あり／なし)

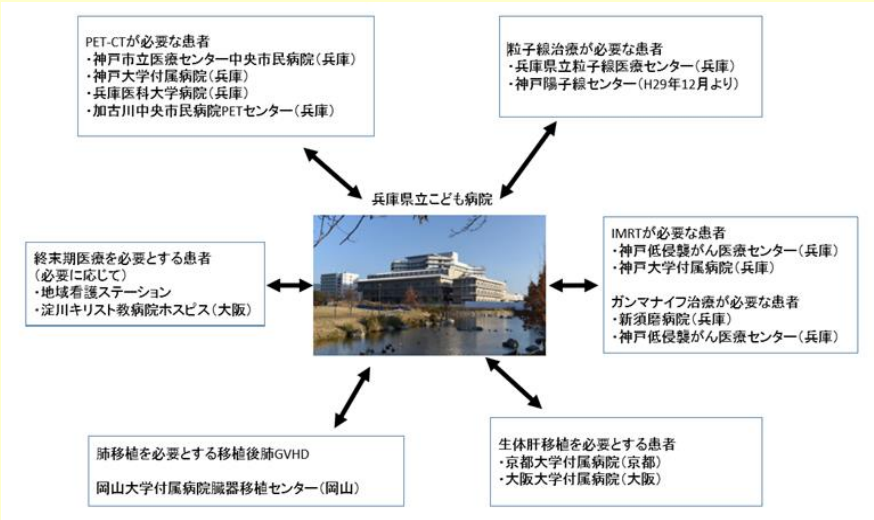
ファイル形式 (ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

地域の小児がん診療病院と拠点病院間で兵庫県小児がん診療病院調整会議を設置し情報交換や連携を図っている。特に、若手医師の短期研修・長期研修を含めた人的交流、各診療病院との連携共催で行う教育機会の提供を充実させ、診療上の互いの特徴を踏まえて緊密な連携を図っている。また、地域の医療機関と連携し、化学療法・移植後の長期フォローアップ及び終末期の在宅診療への移行にも積極的に取り組んでいる。

当院で診療実績のない病態については表・図の通り診療連携を図っているが、特に近年、再発難治症例や陽子線・粒子線治療に積極的に取り組んでおり、平成27年4月から兵庫県立粒子線医療センターと連携して小児がん患者に対する陽子線・粒子線治療に取り組んできた実績を生かして、平成29年12月より隣接した神戸陽子線センターで診療を開始した。同センターでは小児がんに特化したガントリーを備え、放射線治療医、小児腫瘍医、麻酔科医が密に連携して、年齢・状態に関わらずあらゆる小児の陽子線治療に対応できる施設として、日本全国より広く患者を受け入れている。



	施設名	具体的疾患・病態、施設の特徴、連携方法
小児がん拠点病院	兵庫県立こども病院	全てのoncologic emergencyに対する救急対応可能。専門性の高い外科系手術に対応が可能。標準治療のみならず、重症例・難治再発例・標準治療未確立症例に対する治療を広く受け入れる。県内の小児がん診療病院で対応が困難な重症例を優先的に受け入れ、急変時の逆紹介を受け入れている。
兵庫県内の	兵庫県立尼崎総合医療センター	標準治療。一部の集中治療を必要とする症例に対する受け入れが可能。
小児がん医療連携	兵庫医科大学病院小児外科	標準治療。一部固形腫瘍症例の手術のみ受け入れ可能。
病院	神戸大学附属病院小児科	造血幹細胞移植症例に対する無菌室運用を県立こども病院と連携運用することが可能。IMRTが必要な症例の受け入れが可能。
	西神戸医療センター	長期フォローアップ
	兵庫県立がんセンター	長期フォローアップ
	北播磨総合医療センター	長期フォローアップ
	明石市民病院小児科	標準治療
	加古川市立中央市民病院	長期フォローアップ
	姫路赤十字病院	長期フォローアップ
陽子線・粒子線	兵庫県立粒子線医療センター	陽子線・IMRT（強度変調放射線治療）が必要な患者を紹介・連携して治療を行っている。
治療	筑波大学附属病院	
IMRT	神戸大学附属病院	
	神戸低侵襲がん医療センター	
肝移植	京都大学附属病院移植外科	肝移植を必要とする難治性肝芽腫などの紹介を行っている。
	大阪大学附属病院移植医療部	
肺移植	岡山大学附属病院臓器移植センター	肺移植を必要とする造血幹細胞移植後の肺GVHDなどの紹介を行っている。
成人・AYA世代	西神戸医療センター	AYA世代患者を積極的に受け入れつつ、成人に達したキャリアオーバー患者の紹介・連携を図っている。
	神戸大学附属病院腫瘍血液内科	
	兵庫医科大学血液内科	
	神戸医療センター中央市民病院	
終末期医療	淀川キリスト教病院小児ホスピス	必要に応じて終末期緩和医療目的で紹介を行っている。紹介後も適宜、症例カンファレンスを持ち、情報共有・治療方針の協議を行っている。
在宅医療	地域の在宅ステーション	小児がん相談支援センターを窓口にして在宅医療の紹介・連携を図っている。

小児がんに対して、手術、放射線療法または化学療法に携わる専門的な知識
および技能を有する医師によるセカンドオピニオンを提示する体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：兵庫県立こども病院

時期・期間：令和元年9月1日現在(実績は平成30年1月1日～12月31日)

■病院のホームページで「セカンドオピニオン」の説明が掲載されているページの内容

ホームページ	見出し	セカンドオピニオン	アドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/new_site/outpatient/reserve		
問い合わせ先の 電話など	対応可能な 疾患名	対応した患者数 (実績)	担当する医師の情報			保険診療、または 保険外診療である旨
			医師名	診療科	専門分野	
掲載あり	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載なし	掲載あり

疾患ごとに、セカンドオピニオンを担当する医師に関する情報を5名まで記載してください。
※対応状況で「対応不可」を選択した場合は、「セカンドオピニオンを担当している医師」に関する表への記載は不要です。

✓チェック欄
に未入力な
し

小児脳腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年 の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	2	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	脳神経外科	○	○	×	×	
2人目	血液腫瘍内科	○	×	○	×	
3人目	放射線治療科	○	×	×	○	
4人目						
5人目						

OK

小児の眼・眼窩腫瘍

○	※別紙2を反映 ○：専門とするがん ×：診療を実施していないがん	対応状況 (対応可／対応不可)	対応可	昨年 の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
セカンドオピニオンを 担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門：○/専門外：×)	当該疾患の専門分野(専門：○/専門外：×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	眼科	○	○	×	×	
2人目	血液腫瘍内科	○	×	○	×	
3人目	放射線治療科	○	×	×	○	
4人目						
5人目						

OK

小児悪性骨軟部腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	0	件
---	--	--------------------	-----	------------------------------	---	---

OK

セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	整形外科	○	○	×	×	
2人目	形成外科	○	○	×	×	
3人目	耳鼻咽喉科	○	○	×	×	
4人目	血液腫瘍内科	○	×	○	×	
5人目	放射線治療科	○	×	×	○	

その他の小児固形腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	5	件
---	--	--------------------	-----	------------------------------	---	---

OK

セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	小児外科	○	○	×	×	
2人目	血液腫瘍内科	○	×	○	×	
3人目	放射線治療科	○	×	×	○	
4人目						
5人目						

小児血液腫瘍

○	※別紙2を反映 ○:専門とするがん ×:診療を実施していないがん	対応状況 (対応可/対応不可)	対応可	昨年の実績 ※平成30年1月1日～12月31日まで	8	件
---	--	--------------------	-----	------------------------------	---	---

OK

セカンドオピニオンを担当している医師	所属している診療科	当該疾患に対する専門性 (専門:○/専門外:×)	当該疾患の専門分野(専門:○/専門外:×)			
			手術	化学療法	放射線療法	その他※具体的に記載してください
1人目	血液腫瘍内科	○	×	○	×	
2人目	放射線治療科	○	×	×	○	
3人目						
4人目						
5人目						

小児がん患者およびその家族が語り合うための場の設定状況

記載の有無
あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

小児がん患者の遊びの場（プレイルーム等）やAYA世代の交流・勉強の場、患者家族が語り合うための場（患者サロン等）について記載すること。さらにおもちゃ・図書・パソコン・運動設備等の有無、保育士等の配置などについても記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。2枚以内におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙13を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無	なし	(あり／なし)
ファイル形式		(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。		

OK

血液腫瘍内科主体病棟内には約35㎡のプレイルーム（写真左）があり、多数のおもちゃや1500点以上の図書の他に数点の遊具が設置され、保育士の指導の下、患児に適度な運動を提供できるようになっている。また、プレイルームは、患児たちや家族の交流の場となっている。血液腫瘍内科主体病棟専属のホスピタルプレイスペシャリスト1名に加えて、適宜病棟ボランティア数名を配置して、毎日平日11時より、プレイルーム内で未就学児を対象とした集団保育を実施している。また倦怠感の強い患児などに対しては、集団保育以外の時間を利用してベッドサイドで個別の保育も行っている。院内の集中治療系以外の病棟には同規模のプレイルームがあり、それぞれ保育士も配置され、小児がんの患児が他病棟に入院した際も同様の保育が受けられるようになっている。平成28年9月より、語り合う場の提供に加え、相談支援や情報収集の場の提供等の目的も兼ねて、がん相談支援室（写真右）が主催する『がんサロン』を開催している。また、がん相談支援室は外来部門に位置し、入院中・外来通院中の患者・家族が利用できるフリースペースを有しており平日日中に開放している。また、同スペースで、平成28年9月から、語り合う場の提供に加え、相談支援や情報収集の場の提供等の目的もかねて、がん相談支援室ががんサロン（通称nanaサロン）を定期的を開催している。さらに平成30年度からはボランティアによるマッサージを提供するアロマサロンの開催を開始した。





当院血液腫瘍内科ではビーズ・オブ・カレッジ・プログラムを導入している。入院・外来加療中の大半の患児がこのプログラムに参加しており、毎週ビーズ大使(主にホスピタルプレイスペシャリスト)から、治療や処置ごとのそれぞれのビーズを受け取っている。ビーズという形のあるものを通して、治療過程や治療後の体験を患児自らが語りやすくなり、病気に対するストレスの軽減や心理的サポートの一助となっている。当院では長期入院のための患児に対して神戸市立友生支援学校みなと分教室が整っている。5階病棟内に小学校・中学校それぞれが独立した学習室(写真左)があり、移動できる状態の学齢以上の患児が院内学級で授業を受ける。何らかの理由で離床できない患児には、教師がベッドサイドに赴き個別学習を行っている。同病棟内には食堂があり、比較的症状が軽く移動できる状態の患児が食事をすると同時に、患児同士、あるいは母親と保育士や看護スタッフらの交流の場となっている。また、血液腫瘍病棟の外にデイルーム(写真右)があり、ここは医療スタッフを交えない患者家族同士の貴重な語り合い、交流の場となっている。



小児がん患者およびその家族が語り合うための場

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

語り合うための場総件数： 2

OK

1. 小児がん患者およびその家族が語り合うための場を記載してください。

	名称	主催者名	病院 職員の 関与	活動状況		参加対象者			主な活動内容	参加対象者向けの 院内の問い合わせ窓口 (窓口の名称・電話番号)	
				定期 / 不定期	頻度 (回)	病名	院外からの参加 (参加可/参加不可)	患者のみ / 家族のみ / 患者・家族		名称	電話番号
例	〇〇〇会	〇〇〇会	なし	定期	週 1	小児がん	参加可	患者・家族	小児がん患者の親の交流会を開催している。	相談支援センター XXX-XXXX-XXXX直通	
1	さくらんぼの会	さくらんぼの会	あり	定期	年 3	小児がん	参加不可	患者・家族	当院血液・腫瘍内科に入院・通院治療経験を持つ患児の親、医療関係者などで構成され、支援活動、電話相談、インターネット相談など	がん相談支援室	078-945-7300内線23063
2	すずらんの会	すずらんの会	あり	定期	年 2	小児がん	参加不可	家族のみ	当院血液・腫瘍内科において小児がんでこどもを亡くした親の会。	がん相談支援室	078-945-7300内線23063
3	nanaサロン	がん相談支援室	あり	定期	年 6	小児がん	参加不可	患者・家族	療養に伴うケア等に関する情報提供と患者・家族同士の交流の場を提供している。	がん相談支援室	078-945-7300内線23063
4	アロマサロン	がん相談支援室	あり	定期	年 12	小児がん	参加不可	家族のみ	ボランティアによるマッサージの提供と家族同士の交流の場の提供をしている。	がん相談支援室	078-945-7300内線23063
5											
6											
7											
8											
9											
10											

2. 患者および家族向けの図書室の設置状況を記載してください。

※院内の相談支援センターなどの図書室について記載してください。院内図書室以外は3ページ目に記載してください。

1	患者および家族向けの図書室の設置	設置なし	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。					
2	図書室の名称							
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し						
		アドレス	http://					
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載		その他					
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系の ビデオ・DVD	医療系の 冊子	
		医学専門書	一般向け 医療系図書	医学専門 雑誌	一般向け 医療系雑誌			
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機		
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表			(内線)			
		直通1			直通2			
8	対応職員の職種等・人数	(例) 看護師	1	人	ボランティア		2	人
				人				人
				人				人
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	未実施						

OK

OK

3. 院内の相談支援センターなどの図書室以外の場所に図書等が設置されている場合を記載してください。

1	院内図書室以外の場所に図書等の設置	設置あり	※「設置あり」の場合に限り、以下を記載してください。									
2	図書等が設置されている場の名称	がん相談支援室										
3	図書室の説明が掲載されているページの見出しとアドレス ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	がん相談支援室									
		アドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/function/childhood_cancer/support/index.php									
4	利用者の制限 ※選択肢に含まれていない場合はその他の欄に記載	制限なし	その他									
5	医療系の資料 冊数または種類の数 貸し出しの制限	図 書		雑 誌		医療系のビデオ・DVD		医療系の冊子				
		医学専門書	一般向け医療系図書	医学専門雑誌	一般向け医療系雑誌							
		50冊以上	50冊以上	10種類未満	10種類未満	10種類以上	50種類以上					
		入院中の方のみ可	入院中の方のみ可	入院中の方のみ可	入院中の方のみ可	入院中の方のみ可	入院中の方のみ可					
6	利用可能な機器	インターネット接続可能なパソコン		プリンター		コピー機						
		設置なし		設置なし		設置あり						
7	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	078-945-7300			(内線)						
		直通1				直通2						
8	対応職員の職種等・人数	(例)看護師	1	人	ボランティア					2	人	
		看護師	1	人	MSW					1	人	
		医師クラーク	1	人							人	
9	ピアサポーターによる対応（実施/未実施）	実施										

OK

OK

診療実績等

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

	年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)		年間新規症例数(※) (平成30年1月1日～12月31日)
造血器腫瘍合計	33	固形腫瘍合計	71
ALL	14	神経芽腫瘍群	9
AML	4	網膜芽腫	7
まれな白血病	0	腎腫瘍	1
MDS／MPDのうちCML	1	肝腫瘍	1
MDS／MPDのうちCMLを除く	1	骨腫瘍	3
Non-Hodgkin Lymphoma	6	軟部腫瘍	10
Hodgkin Lymphoma	0	胚細胞腫瘍	2
その他のリンパ増殖性疾患	0	脳・脊髄腫瘍	33
組織球症(HLH)	1	その他(診断名も記載すること)	膝芽腫1、脊索腫2、神経内分泌腫瘍1、明細胞性歯原性癌1
組織球症(LCH)	3		
その他の組織球症	0		
その他の造血器腫瘍	1		
Down症TAM 登録	2		

OK

※18歳以下の初回治療例とする。セカンドオピニオンは除く。

小児がんに関する研修プログラムの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名：兵庫県立こども病院

時期・期間：令和元年9月1日現在（研修会等の回数は平成30年1月1日～12月31日）

■研修会等の回数について記載すること

小児がんの診療、相談支援、がん登録及び臨床試験等に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	6
うち小児がんの診療に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	2
うち小児がんの相談支援に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	0
うち小児がんのがん登録に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	0
うち小児がんの臨床試験に関する研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	0
うち小児がんに関するその他の研修会等の回数（平成30年1月1日～12月31日）	4

OK

■研修プログラムについて記載すること

プログラムの総件数：

5

OK

プログラム名		期間	対象者	H30 年度 (人)	R1 年度 (人)	H26年度以 降のプログ ラム修了者 (人)	H26年度以降プログラム修了者の 現在の勤務先				プログラムの特徴	
		例 2年	例 医師卒後 〇年～〇年				自施設 (人)	自施設以外				
								大学 病院 (人)	小児 病院 (人)	それ以外の 総合病院 (人)		その他 (人)
1	日本小児血液がん専門医研 修施設研修プログラム	2年	小児科専門医取得 後で、小児血液が ん専門医を目指す 小児科医	4	4						当院は小児専門施設であり、小児を専門とする外科・脳 神経外科・整形外科・泌尿器科・眼科・放射線科・病理 科等の医師が常勤で在籍しており、そのため白血病を 始めとする造血器腫瘍のみならず、固形腫瘍におい ても幅広い知識・技術を習得しやすい環境が整っている。	
2	日本小児科学会専門医研修 プログラム小児科専攻医 コースA(このうち、血液腫瘍 性疾患を担当)	3年(血 液腫瘍 内科配 属は4ヵ 月～1 年)	卒後2年間のスー パーローテート研修 を終了し、小児科専 門医を目指す後期 研修医	0	0						Aコースは当院で3年間の研修を行う。このうち血液腫瘍 内科で4ヵ月～1年の研修を行い、小児科専門医取得の ための血液腫瘍性疾患分野の知識・技術の習得に努め る。上記1と同様に当院は小児専門施設であり、小児が んについての幅広い知識・技術を習得しやすい環境が 整っている。	
3	日本小児科学会専門医研修 プログラム小児科専攻医 コースB(このうち、血液腫瘍 性疾患を担当)	3年(血 液腫瘍 内科配 属は3ヵ 月～半 年)	卒後2年間のスー パーローテート研修 を終了し、小児科専 門医を目指す後期 研修医	0	0						Bコースは初年度に他の兵庫県立病院で研修を行った 後に当院で2年間の研修を行う。血液腫瘍内科で3ヵ月 ～半年の研修を行い、小児科専門医取得のため血液腫 瘍性疾患分野の知識・技術の習得に努める。上記1と同 様に当院は小児専門施設であり、小児がんについての 幅広い知識・技術を習得しやすい環境が整っている。	
4	日本小児科学会専門医研修 プログラム	3年(血 液腫瘍 内科配 属は2ヵ 月～半 年)	卒後2年間のスー パーローテート研修 を終了し、小児科専 門医を目指す後期 研修医	6	4						3年間の研修のうち、初年度、または次年度での他の兵 庫県立病院で研修を行う。血液腫瘍内科で2ヵ月～半年 の研修を行い、小児科専門医取得のため血液腫瘍性疾 患分野の知識・技術の習得に努める。上記1と同様に当 院は小児専門施設であり、小児がんについての幅広い 知識・技術を習得しやすい環境が整っている。	
5	小児血液腫瘍短期研修	3ヵ月	後期研修医で、小 児の血液腫瘍性疾 患の診療をしてい ない他施設で研修 を行っている者	2	4						上記1で述べた特長に加え、当院は全国でも有数の症 例数を誇り、比較的短期間でも専門医取得のための経 験数を得ることが可能である。	

相談支援センターの体制

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名：

兵庫県立こども病院

時期・期間：

令和元年9月1日現在

相談支援センターの名称、体制、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

相談支援センターの名称				がん相談支援室				
相談支援センターのメンバー								
職種		常勤／非常勤	専従/専任/兼任	相談業務の 経験年数(年)	相談員基礎研修会の受講状況			中央機関 による研修
					基礎研修会 (1)	基礎研修会 (2)	基礎研修会 (3)	
1	血液腫瘍内科医師	常勤	兼任(5割未満)	12	未受講	未受講	未受講	未受講
2	小児看護専門看護師	常勤	専任(5割以上8割未満)	2	受講	受講	未受講	受講
3	社会福祉士	常勤	兼任(5割未満)	6	受講	受講	受講	受講
4	社会福祉士	非常勤	兼任(5割未満)	3	未受講	未受講	未受講	未受講
5	医師クランク	非常勤	兼任(5割未満)	1	未受講	未受講	未受講	未受講
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

OK

●年間の相談総件数(平成30年1月1日～12月31日)

576

件

上記1件あたりの平均対応時間

平均

16

分

最短

5

分

最長

105

分

中央値

40

分

OK

相談件数(令和元年6月1日～7月31日)

	相談者	対面相談	電話相談	FAX相談	E-mail相談	計
1	自施設の患者・家族	99	5	0	0	104
2	他施設の患者・家族	0	3	0	0	3
	合計	99	8	0	0	107

相談支援内容 ※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄で掲載する予定です。		相談支援の対象者
例	がんの診療を行っている医療機関の紹介(70施設を対象に調査を行い、その資料をもとに医療機関の情報を提供しています。)	他施設の患者・家族
1	小児がん患者の発達・療養上の各種問題への相談業務	自施設の患者・家族
2	小児がんに関わる社会資源の紹介	自施設の患者・家族
3	小児がん患者家族の心理的支援	自施設と他施設の患者・家族
4	小児がんの治療・治療施設に関する情報提供	自施設と他施設の患者・家族
5	小児がん患者家族会の紹介	自施設の患者・家族

OK

相談支援センターの状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 兵庫県立こども病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

相談支援センターの相談員など、相談支援センターの雰囲気が伝わる画像を貼付してください。
この画像は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」の相談支援センターの紹介欄に掲載いたします。
このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙18を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無 (あり/なし)
ファイル形式 (ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

【必須】相談支援センターページの基本情報で掲載する画像を「**1枚**」、**上記の別添資料の有無に関わらず**提出してください。
※横長の写真の方が収まりがよいです。
※上記の別添資料と同じ画像でも構いませんが、写真ファイル名を「**別紙18相談支援センター画像**」として別に添付してください。
ファイル形式 (PNG/JPEG/GIF/その他)
その他の場合ファイル形式を記載してください。

左より、がん相談支援室窓口(左)、がん相談支援室(中)、がんサロン(右)



相談支援センターの問い合わせ窓口

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名: 兵庫県立こども病院

時期・期間: 令和元年9月1日現在

1	相談支援センターの名称	がん相談支援室										OK	
2	問い合わせ先電話番号 ※電話番号は半角英数で「-」を用いて記載 ※内線は、設置されている場合のみ記載	代表	078-945-7300			(内線)	22236						
		直通1											
		直通2											
		直通3											
3	対面相談の実施(実施/未実施)	実施											OK
	予約の要否(必要/不要)	必要											
	電話相談の実施(実施/未実施)	実施											OK
	相談用の電話番号	代表	078-945-7300			(内線)							
直通1					直通2								
予約の要否(必要/不要)		不要											
4	FAX相談の実施(実施/未実施)	未実施											OK
	相談用のFAX番号 ※半角英数で記載 ※代表番号は、直通番号がない場合のみ記載	直通1				直通2							
		代表											
	電子メール相談の実施(実施/未実施)	未実施											OK
	相談用の電子メールアドレス ※半角英数で記載 ※個人のメールアドレスは記載しないでください	1											
		2											
5	相談員の職種・人数 ※選択肢に含まれていない職種の場合は、その他の欄に直接記載	(例)精神保健福祉士				2	人	ソーシャルワーカー(上記以外)				1	人
		医師				1	人						人
		看護師				1	人						人
		社会福祉士				2	人						人
		事務員				1	人	その他					人
							人	その他					人
6	ピアサポーターによる対応(実施/未実施)	未実施											OK
	具体的な活動内容												
	地域の患者会の情報提供の有無	あり											OK
	提供可能な患者会の数	6											

7	上記患者会の参加対象者の疾患名 ※特定の疾患の患者さんや家族を対象とした患者会が含まれている場合のみ記載 (例:乳がん、血液腫瘍、子どものがん、女性のがんなど)	当院における患者会に対しては、どの疾患の患児・家族も参加可能
---	--	---------------------------------------

小児がん患者団体との連携

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無 **あり**

病院名: 兵庫県立こども病院

時期・期間: 平成30年1月1日～12月31日

団体総件数: 6

OK

小児がん患者団体との連携(患者の交流会、勉強会、相談支援、講演会等)があれば記載すること。

小児がん患者団体			具体的な連携の内容 (例：月1回患者交流会を開催している。市民講演会に演者として参加してもらっている。)
団体名	団体の参加対象者		
1	さくらんぼの会	兵庫こども病院血液・腫瘍内科で治療を受けた患者のご家族	年4回程度の交流会を開催している。病棟のクリスマス会に協力してくれている。
2	すずらの会	兵庫こども病院血液・腫瘍内科で治療を受け死亡した患者のご家族	年2回程度の交流会を開催している。亡くなった患者さんのご遺族のケアに協力してくれている。
3	脳幹グリオーマの会	脳幹グリオーマと診断された患者のご家族	年2回程度の交流会を開催している。こども病院で亡くなった患者様についてのグリーフケア・ピアカウンセリングのサポーターとして協力している。
4	エスビューロー	小児がんの患者のご家族及び患者本人	年1回程度の交流会に参加し、意見交換をしている
5	がんの子どもを守る会	小児がんの患者のご家族及び患者本人	年1回程度の交流会に参加し、意見交換をしている
6	Wish Heart	小児がんの患者のご家族及び患者本人	年10回以上種々のイベントを計画・実行し、小児がん患者や家族の支援や意見交換を行っている。
7			
8			
9			
10			

地域住民へのメッセージ

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

※本別紙は、国立がん研究センターのサイト「がん情報サービス」のがん診療連携拠点病院のページに掲載することを目的としています。
※各項目200字以内で記載してください。

1	小児がん拠点病院としてのメッセージ
	(例) 当院は、すべてのがん患者さんの治療方針の決定を外科、腫瘍内科、放射線治療等複数の領域の専門家による「カンサーボード」によって十分に検討し、最善の治療を行うよう努めております。
2	平成26年4月1日付けで小児がん医療センターを開設しました。小児がん患者様に、よりきめ細かな集学的治療(血液腫瘍内科・外科系各科等、多くの科がチームを組んで行う医療)の提供と他施設との連携強化を推進します。小児集中治療科及び救急総合診療科と協力し、oncologic emergency(がん救急)にも柔軟に対応できる体制を敷いています。隣接する神戸陽子線センターと協力して、麻酔科医の協力の下、鎮静が必要な幼児例にも陽子線治療を実施しています。陽子線治療の実施、造血幹細胞移植における骨髄非破壊的移植前処置の導入、女性患者に対する卵巣組織凍結保存の取り組みなど、治療後の晩期障害低減を目指した“患者にやさしい治療”に取り組んでいます。より高度で洗練された医療によって、難しい疾患に苦しむこども達を救いたいと願っています。
	相談支援センターからのメッセージ
3	(例) 医療ソーシャルワーカーが皆様のお話を伺い、一緒に考え、課題解決のお手伝いをさせていただきます。また、お話をお伺いし、専門の看護師やスタッフをご紹介させていただきます。
	当院では相談支援体制の充実として、当院または他院でがんと診断されたお子さまとご家族のご不安やお悩みに対応するため、「がん相談支援室」を設置しています。小児がんを持つお子さまやご家族が少しでも安心して生活を送ることができるよう、がん相談支援室スタッフ一同取り組んでいきたいと考えています。看護部・緩和ケアチームと合同で院内だけでなく院外の看護師も対象にした小児がん看護研修を開催し、小児がん看護における人材の育成と連携の強化に努めています。昨年からがんサロン、本年度から家族教室も開催し、小児がん診療環境の向上に取り組んでいます。どうぞよろしくお願いいたします。
4	緩和ケアチームからのメッセージ
	(例) 緩和ケアチームには、長年緩和医療に携わっている経験を積んだ医師、看護師、薬剤師が含まれ、身体的な痛みを始め、患者さんの精神的苦痛を和らげるため、担当医と連携し、最善の医療を提供します。
5	腫瘍内科医、精神神経科医、脳神経外科医、救急医、小児麻酔科医、薬剤師、看護師、臨床心理士等でここにこさぽーとチームを構成し、積極的に活動を実施しています。また、当院では骨髄穿刺や腰痛穿刺等の痛みを伴う処置は、病棟において小児麻酔科医による吸入麻酔下で実施しています。処置時の病棟麻酔はこども達にとって安全なだけでなく、治療中の痛みを取り除くことに繋がり、国内では極めてまれなことから、この点で高い評価を受けています。さらに、小児がん病棟に臨床心理士を配置し、患者・家族のこころのケアを実施しています。
	緩和ケア病棟からのメッセージ(※緩和ケア病棟が設置されている場合のみ記載してください。)
6	(例) 緩和ケア病棟は、別棟となっており、全室から中庭に出ることが可能で、豊かな自然を感じて、充実した時間を過ごすことができます。

臨床研究を支援する専門の各部門のメンバー

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無
あり

病院名: 兵庫県立こども病院
時期・期間: 令和元年9月1日現在

各部門のメンバー(個人情報を記載しないよう注意すること) メンバー総人数: 64 OK

各部門名		各部門のメンバーの専門性・職種
例	事務部門、データセンター部門、コーディネーター部門、治験管理室	薬事専門家、CRC、リサーチ・コンシェルジュ、生物統計家、事務担当
1	治験審査委員会	委員長(医師:医療安全部長)他、医師4名、薬事専門家(薬剤師)、看護師、事務担当、外部委員2名を含む計11名
2	治験管理室	薬事専門家(薬剤部長、薬剤部員2名、計3名)
3	治験薬管理部門	薬事専門家(薬剤部長、薬剤部員21名、計22名)
4	治験契約部門	経理課職員
5	臨床研究支援室	医師(9名)、生物統計家、診療情報管理士(がん登録中級修了者)、CRC(院内CRC 2名)、看護師(教育担当師長)、検査技師、経理課職員、総務課職員、含む計16名
6	倫理委員会	委員長(医師:副院長)他、医師4名、薬事専門家(薬剤師)、看護師、事務担当、外部委員(法律専門家)を含む計11名
7		
8		
9		
10		

臨床研究の問い合わせ窓口

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

記載の有無

あり

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

【 臨床試験（治験を除く） 】の問い合わせ窓口										
1	■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について						臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある			OK
	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
	窓口の名称		臨床研究センター							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	連携大学院・臨床研究センター						
			アドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/src/renkei/index.html						
	電話		代表	078-945-7300	(内線)	30005	38061			
直通										
2	■臨床試験（治験を除く）に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						臨床試験（治験を除く）専用の窓口がある			OK
	※臨床試験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
	窓口の名称		臨床研究センター							
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください		見出し	連携大学院・臨床研究センター						
			アドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/src/renkei/index.html						
	電話		代表	078-945-7300	(内線)	30005	38061			
直通										

【 臨床試験以外の小児がんに関連する臨床研究(特にトランスレーショナルリサーチ)】の問い合わせ窓口									
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口の有無について						臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある			
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
1	窓口の名称		臨床研究センター						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	連携大学院・臨床研究センター						
		アドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/src/renkei/index.html						
	電話	代表	078-945-7300	(内線)	30005	38061			
		直通							
■臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						臨床試験以外の小児がんに関する臨床研究専用の窓口がある			
※臨床研究専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
2	窓口の名称		臨床研究センター						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	連携大学院・臨床研究センター						
		アドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/src/renkei/index.html						
	電話	代表	078-945-7300	(内線)	30005	38061			
		直通							
【 治験 】の問い合わせ窓口									
■治験に参加していない地域の患者さんやご家族向けの問い合わせ窓口について						治験専用の窓口がある			
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
1	窓口の名称		治験管理室						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	治験管理室						
		アドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/src/news/090401/toppage.html						
	電話	代表	078-945-7300	(内線)	30022				
		直通							
■治験に参加していない地域の医療機関向けの問い合わせ窓口について						治験専用の窓口がある			
※治験専用の窓がある場合に限り、以下の表に記載してください。									
2	窓口の名称		治験管理室						
	上記の窓口の説明が掲載されているページ ※アドレスは、手入力せずにホームページからコピーしてください	見出し	治験管理室						
		アドレス	http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/src/news/090401/toppage.html						
	電話	代表	078-945-7300	(内線)	30022				
		直通							

OK

OK

OK

OK

教育支援、復園・復学支援の状況

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

教育支援、復園・復学支援の状況について記載すること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙24を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

ファイル形式

(ワード/ノート/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

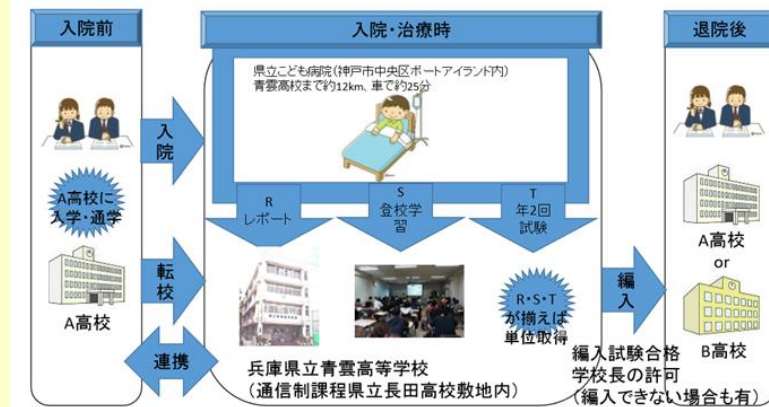
その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

当院では2016年5月より長期入院のための患児に対して神戸市立友生支援学校みなと分教室として院内学級を設置した。5階病棟内に小学校・中学校それぞれが独立した学習室があり、移動できる状態の学齢以上の患児が院内学級で授業を受ける。何らかの理由で離床できない患児には、教師がベッドサイドに赴き個別学習を行っている。治療終了後の原籍校への復学にあたっては、原籍校の担任教諭や養護教諭と医療スタッフとのカンファレンスを行っている。そこでは患者・家族の理解が得られればそれまでの医学的な情報も提示しながら、今後の学校や家庭での児の病態に基づいた関わり方のアドバイスを行っている。幼稚園・保育園に関しても同様に対処している。また、指導相談・地域医療連携部による発育や療育の相談と助言も適宜行っている。高校生に対しては、兵庫県教育委員会等教育行政関係者との連携により、希望者には、通信制高校(兵庫県立青雲高校)への転校と原籍校との連携により、レポート、登校学習、年2回の試験により単位取得を行い、編入試験や学校長の許可を経て原籍校へ編入できる枠組みを整えた。加えて2019年より神戸市教育委員会との連携により院内でICTを活用した教育ツール(「みんなの学習クラブ」)による補助学習や、ボランティアを活用した高校生への個別学習指導体制を導入し、多角的な教育支援に取り組んでいる。



通信制高校(兵庫県立青雲高校)への転校のイメージ図



長期滞在施設またはこれに準じる施設

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

病院からの距離、施設内の設備（調理スペース、ランドリー、プレイルーム等）、人の配置等について記載すること。必要に応じて写真を貼付することも可。1枚におさめること。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙25を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり／なし)

ファイル形式

(ワード／一太郎／リッチテキスト／エクセル／パワーポイント／PDF／その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

OK

病院敷地内に16室のベッドルームを備えた、ドナルド・マクドナルド・ハウス 神戸を併設している。各室は、風呂・トイレ・クローゼットがついた洋室となっている。共同スペースとして、キッチンや冷蔵庫が設置されたダイニングルームや、テレビや書籍を備えたリビングルーム、子ども達が遊べるキッズコーナーがあり、ランドリーには洗濯機・乾燥機が設置されている。運営方法としては、公益財団法人 ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンに使用許可を与えており、責任者1名・一般職員4名・ボランティア261名で運営している。



PDCAサイクルについて

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、地域に対して行っている情報提供を記載してください。

- ①院内の見やすい場所に掲示している
②院内誌、チラシ等で広報している
③ホームページに掲載している
④ホームページに掲載している場合、該当するページのアドレスを記載してください

いいえ (はい/いいえ)
いいえ (はい/いいえ)
いいえ (はい/いいえ)

OK
OK
OK

- ⑤地域の広報誌等で広報している
⑥その他の方法で掲載している
⑦その他の方法がある場合、内容を記載してください

http://
いいえ (はい/いいえ)
いいえ (はい/いいえ)

OK
OK

■自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、患者QOLについて把握・評価し、課題認識を院内の関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じる体制について、必要に応じて図表などを活用し、具体的に記載すること。

PDCAを使って改善することを想定している課題(いくつでも可)

課題の内容	目標	目標達成の検証方法(データ源)
例) 患者満足度の向上	退院患者の80%が入院治療環境に満足する	3カ月おきに日を設定して患者アンケートを行う。
1 造血幹細胞移植を含めた再発・難治例の診療	臨床試験のみならず治療にも力を入れ、特に県下並びに中四国地域の小児がん診療病院では診療困難な再発・難治例に対する治療機会の拡大と患者受け入れに尽力する。	半期毎に紹介地域・患者分布についての分析を行い、地域ブロック並びに中四国の小児がん診療病院等と情報共有する。
2 小児がん患者に対する陽子線治療における神戸陽子線センターとの医療体制構築	①治療前の情報共有方法の確立、 ②陽子線治療後の晚期合併症の追跡体制の確立	兵庫県立こども病院、神戸陽子線センター関連部署による合同会議を通じて適宜、課題抽出を解決を図る。
3 小児がん長期生存者に対する長期フォローアップ体制を確立する	長期フォローアップ来たるの拡充と多職種連携の向上による小児がん生存者に対する支援体制の向上	血液・腫瘍内科における腫瘍カンファレンスの他、小児腫瘍医、小児内分泌医、看護師、心理士などによる多職種カンファレンスを定期的(月1回)に行い課題抽出を図る。
4 AYA世代のがん診療、特に高校生に対する教育支援に改善を図る	①AYA世代のがん患者受け入れにあたっての療養環境整備 ②AYA世代のがん患者に対する診療経験の蓄積 ③高校生に対する教育支援	教育支援は県教育委員会との合同会議、復学支援については復学カンファレンスの機会に課題抽出し、定期的(2か月毎)の小児がんセンター運営会議で報告・検証する。
5 緩和ケア体制のさらなる充実に向けた取り組み	①緩和ケア医療、緩和ケアチーム活動を充実する。②アピアランスケア活動を開始する。	小児がんセンター運営会議及び緩和ケア部会において課題抽出と問題解決の立案を行なう。アピアランスケア部会を設立し、小児がんセンター運営会議で定例報告を行なう。

上記の目標に向けた活動計画の予定(未定の場合には、未定と記入)

1	兵庫県小児がん診療病院連携会議、近畿ブロック小児がん診療病院連携会議、中四国地方の小児がん診療病院とのTV会議等で連携を図り難治例に対する患者受け入れを強化する。
2	①放射線治療医と合同で行う腫瘍カンファレンスを通じて、円滑な情報共有を図り、関連会議を通じて課題抽出と解決を図る。2018年秋までに円滑な情報共有を図るための紹介患者テンプレート、2施設共有の業務手順書を作成した。③陽子線治療後の晚期合併症の追跡体制を確立するために、観察研究計画書を作成した。近く施設倫理審査に諮問する予定。
3	小児血液腫瘍医・小児内分泌医・看護師・心理士など多職種によるカンファレンスを毎月開催し、情報共有を行なう。外来診察室にポスターを掲示し、治療終了後外来フォロー中の患者については、希望者に長期フォローアップ手帳の配布を行なう。移行期医療に該当するAYA世代患者に対しては兵庫県小児がんサポーター会議と連携し、ライフステージに応じたきめ細かなフォローアップを地域医療機関と連携する。
4	①AYA世代がん患者の多様なニーズに対して治療環境(Web環境、食事、同世代患者が少ない等)や情報の不足等の課題解決を図る。②成人がん診療拠点病院との連携によりAYA世代がん患者の集約化を図る。③単位制(通信制)高等学校、原籍校との連携、ICTを活用した教育支援、教育ボランティアを含めた補助学習の充実を図る。復学支援については教育現場と緊密に連携し、復学カンファレンスを開催する。
5	①緩和ケア事例検討会、緩和ケア講演会等の研修会の開催を通じて啓発活動を行った。②新たにアピアランスケア部会を立ち上げ、AYA世代のアピアランスケアに取り組む。

このシートに貼付することが難しい場合、**ファイル名の頭に別紙28を付けた**電子ファイル、別添資料を提出すること。

別添資料の提出有無

なし

(あり/なし)

OK

ファイル形式

(ワード/ノータブル/リッチテキスト/エクセル/パワーポイント/PDF/その他)

その他の場合ファイル形式を記載してください。

医療安全体制

記載の有無

あり

※「あり」とするとデータ抽出の対象となります。記載する内容がない場合は「なし」としてください。「なし」の場合は以下について記入の必要はありません。

病院名： 兵庫県立こども病院

時期・期間： 令和元年9月1日現在

●医療に係る安全管理を行う部門の名称、メンバーについて記載すること。個人情報に記載しないよう注意すること。

医療に係る安全管理を行う部門の名称			リスクマネジメント部会		
医療に係る安全管理を行う部門のメンバー					
職種		常勤／非常勤	専従/専任/兼任	人数	うち、医療安全対策に係る研修を受講した者の人数
1	医師	常勤	専従		
			専任	1	1
			兼任	10	10
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
2	薬剤師	常勤	専従		
			専任	1	1
			兼任		
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
3	看護師	常勤	専従	1	1
			専任		
			兼任	17	17
		非常勤	専従		
			専任		
			兼任		
4	臨床工学士	常勤	兼任(5割未満)	1	1
5	臨床検査技師	常勤	兼任(5割未満)	1	1
6	放射線技師	常勤	兼任(5割未満)	1	1
7	言語聴覚士	常勤	兼任(5割未満)	1	1
8	医事企画課長	常勤	兼任(5割未満)	1	1
9	栄養管理課長	常勤	兼任(5割未満)	1	1
10					

OK

●医療安全のための患者窓口

窓口の名称		リスクマネジメント部会				
電話	直通					
	代表	078-945-7300	(内線)	31005		

OK